



EF EPI

EF英語能力指数

世界123カ国・地域の英語力ランキング

www.ef.com/epi

EF SET

今すぐ無料で
英語能力を診断：

www.efset.org/ja

efekta

2025

はじめに AI時代の英語学習

人工知能(AI)は、世界における英語の使用方法を根本的に変革しており、英語教育と普及の分野において新たな機会と課題をもたらしています。この変化は、教師、学習者、国際機関、エドテック(教育技術企業)など、あらゆる関係者に影響を及ぼしています。今年のEF英語能力指数では、AIが英語習得度に与える影響を明確に測定するには至っていませんが、すでに語学学習の手法と職場における英語コミュニケーションの在り方を大きく変えています。

英語の戦略的重要性

機械翻訳の発達、そして現在のAI技術の急速な進歩により、英語をはじめとする外国語学習が将来にわたって重要性を維持するのかという疑問が提起されています。結論から申し上げると、英語学習は今後も重要性を失うことはないでしょう。

高精度なAI翻訳ツールは、職場における研修プログラムと異文化間コミュニケーションを促進し、より効果的なグローバル協働を実現しています。これらの技術は国際的な研究成果へのアクセスを拡大し、多様な受け手に対して文化的に適切なメッセージを作成することを支援しています。その結果、国際ビジネス環境はより包括的かつ生産的なものとなっています。しかしながら、人間同士の会話における自発性、ユーモア、そして感情表現は、AIでは再現することができません。さらに、インターネット接続への依存性と不可避な応答遅延により、AIを介した対話は機械的で不自然な印象を与えがちです。コスト効率と操作の簡便性から、AIは今後も低リスクの翻訳・通訳業務の自動化を進展させるでしょう。一方で、日常的な対話においては、人間同士が共通言語(英語など)を用いた直接的なコミュニケーションが継続されます。このような人間同士の交流は消失するのではなく、特に信頼関係の構築と相互理解の実証が重要な場面において、その価値はさらに高まる予想されます。

最先端のAI技術の多くは主に英語で開発されており、この傾向は今後も継続すると考えられます。大多数のLarge language models(大規模言語モデル、以下:LLM)が多言語対応機能を備えているにもかかわらず、多くのAI支援技術は、英語版が最初にリリースされています。これにより、英語使用者は同僚に先駆けて、最も洗練されたツールを使い慣れた言語で活用できるという、大きな生産性上の優位性を獲得しています。英語能力とAI技術の理解・活用能力の組み合わせは、すでに職場環境において明確な競争優位を生み出しています。企業は知識共有戦略と研修プログラムを策定する際に、この現実を十分に考慮すべきでしょう。

AIが英語学習に与える変革

世界に約20億人いるとされる英語話者(第一言語が英語ではない)は、中学校での授業から個人指導のビデオ通話、ゲーム化された語彙アプリまで、人生の様々な段階で多様な学習手法を通じて英語を習得してきました。AIは、この学習プロセスのすべてを根本的に変革しようとしています。

消費者向け英語学習市場は、AIがより高度なモバイルアプリケーションとオンラインサービスを推進する中で、かつてない変革を経験しています。Efektaをはじめとする主要な言語学習アプリは、AI駆動の音声認識技術、話す・書く能力の評価システム、個人最適化カリキュラム、自動難易度調整機能を統合し、完全に個別化された学習体験を実現しています。これらのサービスは利用者データを分析して最適な学習パターンを特定し、学習継続の困難を予測して、適切なタイミングで学習意欲を維持するための働きかけを行います。AI搭載のチャットボットと仮想会話パートナーは24時間体制でスピーキング練習の機会を提供し、自主的な言語学習の最大の課題の一つに対処しています。

対面式の語学レッスン、英会話塾などは、長年にわたってオンライン学習との競争に直面してきました。現在も教室での学習を好む学習者が、AIの普及によって直ちにリモート学習に移行する可能性は低いと考えられます。しかし、中等教育機関と高等教育機関の多くはコロナ禍においてリモートでのライブ授業を試みたところ、その成果は限定的でした。AI搭載の個別化英語指導は、これまでの経験とは質的に異なるものです。スマートフォンやタブレット端末の普及に伴い、AIチーターが提供する個人最適化学習の機会が無制限となり、言語学習において大きな優位性をもたらします。プライバシーとデータ保護に関する懸念は当然考慮すべき事項ですが、この技術は十分に検討に値するものです。

AIの最大の教育的優位性は、年齢や職業に関係なく、特定の言語ニーズに対応したカスタマイズされた学習環境を構築できる点にあります。AIチーターは、多様な学習者層に広く動機を与える、親しみやすく実用的な学習環境を創出することができます。この個人対応により、言語学習はより実用的となり、専門分野やカリキュラム要件に直接適用可能になります。あらゆる言語的・文化的背景を持つ学習者が個人最適化されたレッスンを受講し、多くの場合、母語で詳細なフィードバックを得ることができます。この高品質な言語指導の普及は、英語能力と職業機会における世界的格差の縮小に寄与する可能性があります。

LLMは言語を基盤とするシステムであるため、特にプログラミング言語を含む言語処理に優れています。自主的な言語学習者にとって、LLMは極めて有用なツールとなります。例えば、複雑な文法概念の理解、類似する語彙間の意味的差異の把握、特定テーマに関する自己評価、専門分野での上達方法に関するアイデア創出などに活用できます。これらすべての応用は、意欲的な学習者の学習成果を大幅に向上させる可能性を秘めています。しかし一方で、同じ応用が語学スキル習得の重要性を軽視する人々の学習負担軽減を促進する可能性も考えられます。

AIの導入は多くの言語学習において大きな改善をもたらしますが、海外語学留学など現地体験が完全に代替される可能性は低いでしょう。現地でのリアルな体験は、国際環境での文化交流と自己発見を伴った集中的な言語習得を求める人々にとって魅力的な選択肢であり続けます。ただし、AIツールの活用により、これらのプログラムの運営管理業務の効率化が図られ、海外滞在者にとって心強い支援ツールとなる可能性があります。

英語能力評価の未来

英語テストは長年にわたり、英語能力証明を必要とする人々にとって大きな負担となっていました。数百ドルの受験料と数か月にわたる事前準備が必要であったためです。この状況がついに変化の兆しを見せています。

人工知能は、従来の多肢選択問題やその他の標準化された出題形式の採点に加えて、長文記述サンプルと音声回答を数秒で評価できる高度な自動採点システムを通じて、英語能力評価を根本的に変革しています。これらのAIシステムは、文法の正確性、語彙力、論理的一貫性、発音、その他の言語運用能力の諸侧面をますます高い精度で分析し、テスト完了から結果通知までの時間を大幅に短縮しています。EF SET をはじめとする主要な試験実施機関は、英語能力認定に対する世界的需要の拡大に対応するため、AI採点システムを導入しています。これらの試験では、開発から評価に至る全プロセスにおいて専門的な人間採点者を関与させることで、評価の信頼性と妥当性を確保しています。

評価分野は現在、受験者の回答に基づいてリアルタイムで問題難易度を調整するAI搭載の適応型テスト(個人の能力レベルに応じて問題の難易度が自動調整される仕組み)への移行が進んでおり、より少ない問題数とより短い試験時間で、従来以上に正確な能力測定を実現しています。

従来の高重要度試験の枠を超えて、AIは学習サービスにおける継続的評価も可能にしています。学習者の成果と進歩を動的に監視し、定期的な一時点評価に依存することなく、時間の経過とともにスキルの不足領域と能力向上の変化を特定します。AI搭載のこの継続的評価への移行は、テスト不安の軽減と学習者・教育者双方への実用的な洞察提供を実現し、より包括的で精密な能力プロファイルを構築しています。

言語教師の役割の変化

現在、AIは教育現場において否定的な評価を受けることが多く、宿題における新たな不正手段や有害な社会的行動の助長要因として捉えられています。しかし、この見方は視野が狭く、AIが学校教育、特に教育者自身にもたらす恩恵を見落としています。

LLMはアイデア創出に優れており、魅力的な授業設計と指導上の課題特定において、教師にとって信頼できる協力者となります。カリキュラム基準と既存の授業計画へのアクセスを通じて、AIは確立された教育内容への新しいアプローチを提案し、多様な選択肢を生成することができます。教師は簡潔なメモを充実した授業に発展させたり、古い教材を現代的な視点で刷新したりすることが可能になります。AIは、特定の言語的・テーマ的要件を満たす完全にカスタマイズされた教育コンテンツの作成を実現します。例えば、教師は特定の目標言語を使用した時事問題に関する500語のテキストやマルチメディア教材を要求でき、学生の現在の習熟度レベルに完全に適合した練習教材を提供することができます。

AIの性能向上と既存の教室管理システムへの統合が進むにつれて、AIの期待される役割は定型的で反復的な業務を処理し、教育者が人間的なつながり、洞察力、創造性を必要とする高付加価値の指導活動に専念できるよう支援することです。将来的には、AIは教師が大規模な学生集団に対して一人ひとりに合わせた指導と個別化された学習支援を提供すること可能にするはずです。これは従来、時間とリソースの制約により実現困難でした。この能力は教師对学生比率の低い地域で特に価値があり、質の高い言語教育をより多くの学習者に効果的に届けることを可能にします。しかし、教師の管理負担を軽減するというAIの可能性は、実現にはまだ時間を要し、システムの強化だけでなく教育者への適切な研修も必要となるでしょう。

戦略的提言

言語教育におけるAIの可能性に対して楽観視することは妥当ですが、学校と組織はAI活用能力におけるスキルギャップに早急に対処する必要があります。教師と学生には、学習プロセスを補完するAIの責任ある適切な利用者となるための支援が求められています。過度の依存が批判的思考と深い理解を阻害する可能性について、正当な懸念が存在します。成功のためには、人間をプロセスに積極的に関与させ続け、人間の判断を代替するものではなく、戦略的かつ倫理的にAIを活用するよう全関係者を教育することが不可欠です。

組織と個人は、AIツールの能力と限界を評価しながら、積極的にこれらを受け入れる必要があります。教育機関はAIの持つ可能性を無視することはできません。なぜなら、AIは教師、学生、管理者にとって変革的な可能性を提供するからです。将来の職場環境に学生を準備させることを目指す学校は、AI研修をカリキュラムの重要な構成要素として統合しなければなりません。

AI技術を導入する企業は、生産性向上を最大化するために包括的な従業員研修に投資すべきでしょう。労働者がこれらの新しいツールを独力で習得することに委ねるのではなく、組織は体系的な学習機会を提供する必要があります。英語能力とAI活用能力の組み合わせは、変化し続けるグローバル経済において職業的 possibilityを最大化するための最適なスキルセットを構成しています。



クリストファー・マコーミック博士、チーフアカデミックオフィサー、Efekta Education Group
ケイト・ベル、評価部門責任者、EF (Education First)



調査結果

英語は現在も国際コミュニケーションにおける最も重要な共通語として機能しており、世界情勢の不安定化や様々な懸念が存在する中でも、グローバル化が進展する世界における共通語の重要性は不变です。英語コースや語学習得プログラムに対する需要は依然として堅調であり、企業や政府による英語教育への投資も継続されています。しかしながら、英語能力の向上は停滞状態にあります。世界的な英語力の向上が確認された最後の年は2020年でした。

今年のEF英語能力指数は、2024年にEF SET（標準英語テスト）を受験した220万人のデータに基づいて作成されています。今回初めて「スピーキング」と「ライティング」の成績が反映され、従来の指標よりも包括的な英語力評価が可能になりました。これまでのEF SETでは「リーディング」と「リスニング」といった受容スキルのみが測定対象でした。2024年前半から生産スキル（ライティング・スピーキング）の評価が選択項目として導入されました。多くの受験者は従来通り受容スキルの認定のみを選択しています。生産スキルの導入によりスコアに若干の変動が生じましたが（付録E参照）、これらの変化の大部分はテスト方式の変更ではなく、実際の能力傾向を反映したものです。

スキル別の発達パターンの違い

英語力が高い国ほど、最も得意なスキルと最も弱いスキルとの間に大きな技能格差が見られる。平均的な格差の幅は、英語能力が非常に高い国では、能力が低い国や非常に低い国に比べてほぼ2倍に達している。

このことは、各国が英語力を高めていく過程で、すべての技能を均等に伸ばすのではなく、特定の技能を優先的に発達させていることを示唆している。

例外的に、中米およびカリブ地域のいくつかの国を含むわずか7か国のみが、4技能（読む・聞く・話す・書く）の間でほぼ均質な水準を維持している。

ジェンダー格差の縮小傾向

2020年代初頭に男性の英語力が女性を上回る傾向が見られましたが、現在ではその差が縮小しています。今年はすべての地域で性別間の格差が前年より小さくなり、顕著な性別差を示す国は48か国から37か国に減少しました。格差が縮小していない33か国うち、82%は5ポイント以内の変動に留まっており、逆行する動きというよりは安定化の傾向を示しています。この性別差は、新型コロナウイルス感染症パンデミックによる一時的な影響であり、その後の状況改善とともに解消されつつあると考えられます。

若年層と高齢層における英語力の低下

パンデミック以降、若年層（18～25歳）の英語力は回復しておらず、今はさらに多くの国でこの世代のスコアが低下しました。また、40歳以上の成人層においても英語力が再び低下

し、10年前の水準まで後退しています。生産スキルのテスト導入は40歳以上の結果により大きな影響を与えており、受容スキルと生産スキルの格差が顕著に現れています。

リーディングスキルの相対的優位性

約80%の国で最も高いスコアを記録したのは「リーディング」でした。リーディングは教育現場で指導しやすく、大人数の授業にも適用しやすいスキルです。また、自動翻訳、教科書、AI技術などの自習ツールでも練習しやすい分野です。さらに、広告、パッケージ、ゲーム、チャット、マニュアル、ウェブサイトなど、日常生活に英語の読み物が豊富に存在することも要因として挙げられます。リーディングが最も弱いスキルであった国はわずか1か国のみで、その他はほぼすべて低・非常に低い英語力レベルの国々でした。

スピーキングスキルの課題

スピーキングは大多数の国で最も低いスコアを記録し、世界平均でも最も弱い英語スキルとなっています。スピーキングで高スコア（高い英語力）を示した国はわずか3か国（ケニア、南アフリカ、ジンバブエ）で、これらはすべて英語を公用語としています。教育現場では、スピーキングは指導が困難であり、全国統一試験においても個別評価の複雑さから除外される傾向があります。しかしながら、スピーキング能力は職場や旅行において最も注目されやすく、その国の英語力に対する印象を決定づける重要な要素でもあります。

リスニング理解力の困難さ

リスニングのスコアは世界的にリーディングよりも20ポイント以上低く、音声による指示理解の困難さを示しています。リスニングは31か国で最も弱いスキルとなっており、特に南アジアと西アフリカでその傾向が顕著です。EF SETの

音声には米国、カナダ、英国、オーストラリアの発音が使用されていますが、これらの発音に慣れていない学習者にとっては不利に働く場合があります。

文化・母語背景がライティングスキルに与える影響

ライティングが最も高いスキルとなったのは10か国で、そのうち8か国はリスニングが最も弱いスキルでした。ミャンマー、パングラデシュ、ブータン、ネパールなどでは、文書による英語使用が重視される教育・職場環境が反映されていると考えられます。一方、ライティングが最も弱いスキルであった国々の多くは、非ラテン文字で右から左に記述する文字体系を使用しており、文字記述方向がスキル習得に影響を与えている可能性があります。

ヨーロッパ：スキル格差の顕在化

ヨーロッパの英語力平均は横ばいとなり、EU圏ではわずかな向上が見られました。特にフランス、ドイツ、ポーランドは平均以上のスコア上昇を記録しました。しかし、ヨーロッパ諸国は比較的高い英語力を持つ一方で、受容スキルと生産スキルの格差が世界最大の地域となっています。

ラテンアメリカ：年齢・性別格差の課題

ラテンアメリカは全体として若干の向上を示

し、特に南米地域で改善が見られました。しかし、若年層と就労世代の格差が非常に大きく、一部の国では100ポイント近くに達しています。性別格差も根強く、アルゼンチンを除くすべての国で男性が女性を上回っています。

アジア：最小のスキル格差

アジアではスコアが全体的に安定しており、前年から大幅な変動があった国はありません。中央アジアでは近年の上昇傾向が停止し、すべての国でスコアがやや低下しました。ただし、アジアは受容スキルと生産スキルの格差がわずか2ポイントと最も小さく、唯一生産スキルが受容スキルを上回る地域もあります（差はごくわずか）。

アフリカ：多様性の顕著な表れ

アフリカ地域では、大規模かつ低英語力の国が新たに指標に加わったため、平均スコアがわずかに低下しましたが、既存国の順位に大きな変化はありません。最もスコアのばらつきが大きい地域であり（最高点と最低点の差は200ポイント以上）、女性が一貫して男性を上回る唯一の地域もあります。男女格差が縮小傾向にある中で、顕著な差が女性優位で見られる国（70%がアフリカに集中しています）ケニアと南アフリカは年齢間のスコア格差

が世界最小レベルであり、ナイジェリアを含めてスキル間格差の少ない高英語力国として際立っています。これらの特徴は英語を公用語とする植民地時代の歴史と関連している可能性があります。

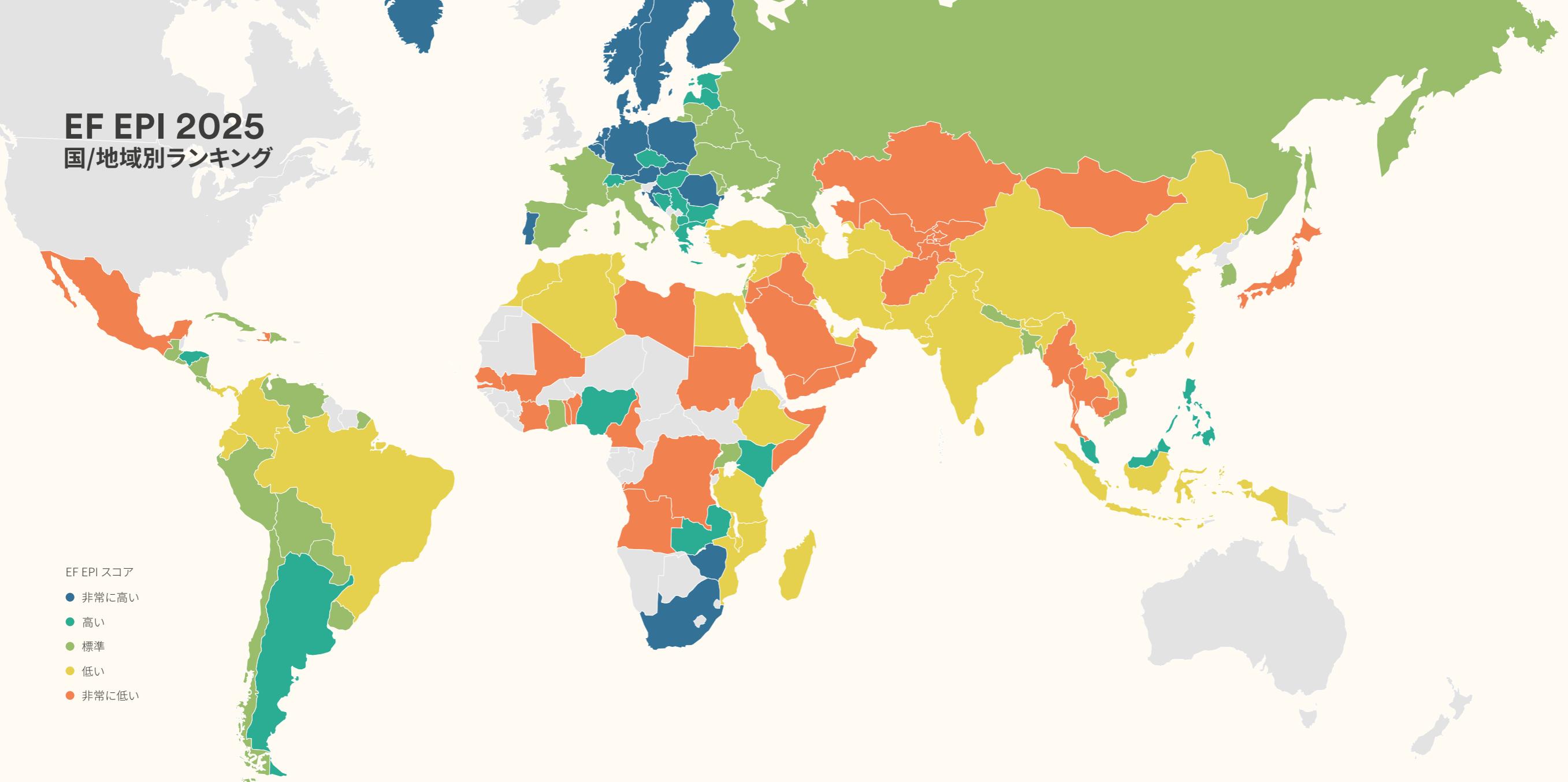
中東：英語力の後退傾向

中東地域では、ほぼすべての国で前年よりスコアが低下し、地域平均も若干下降しました。世界的傾向とは異なり、中東では性別間のスキル格差が拡大している国が多く、変化幅は小さいものの、その地理的集中性から注視が必要です。年齢間のスコア格差は比較的小さく、特定世代の英語力向上を目的とした職場や教育改革があまり実施されていないことが示唆されます。

英語能力は世界的には安定しているように見えますが、各国のスキル構成には大きな相違が存在します。今年の指標から得られる最も重要な示唆は、「スキル間格差」にこそ改善の余地があるという点です。地域、企業、国家レベルで英語力向上を図る場合、最も弱いスキル、特に「スピーキング能力」の強化に重点的に取り組むことが効果的であると考えられます。

EF EPI 2025

国/地域別ランキング



非常に高い英語能力

01 オランダ	624
02 クロアチア	617
03 オーストリア	616
04 ドイツ	615
05 ノルウェー	613
06 ポルトガル	612
07 デンマーク	611
08 スウェーデン	609
09 ベルギー	608
10 スロバキア	606
11 ルーマニア	605
12 フィンランド	603
13 南アフリカ	602
13 ジンバブエ	602
15 ポーランド	600

高い英語能力

16 ラトビア	598
17 北マケドニア	595
18 ブルガリア	594
19 ケニア	593
20 ギリシャ	592
21 ボスニア・ヘルツ エゴビナ	591

標準的な英語能力

33 リトアニア	543
34 ウルグアイ	542
35 ジョージア	541
36 ガーナ	540
36 スペイン	540
38 フランス	539
39 香港(中国)	538
40 キプロス	537
41 ベラルーシ	533
42 アルバニア	532
43 モルドバ	531
43 パラグアイ	531
45 ウクライナ	526
46 イスラエル	524
47 エルサルバドル	523
48 韓国	522

低い英語能力

49 ポリビア	521
49 ロシア	521
51 ベネズエラ	520
52 ペルー	519
53 ウガンダ	518
54 チリ	517
55 コスタリカ	516
56 アルメニア	515
56 キューバ	515
58 ネパール	514
59 イタリア	513
60 ニカラグア	512
61 グアテマラ	510
62 バングラデシュ	506
63 ドミニカ共和国	503
64 ベトナム	500

非常に低い英語能力

81 カタール	469
82 アルジェリア	468
83 エクアドル	466
84 マラウイ	465
84 モザンビーク	465
86 中華人民共和国	464
87 パレスチナ	463
88 ラオス	461
88 アラブ首長国連邦	461
89 エジプト	458
90 マダガスカル	457
91 トルクメニスタン	456
91 シリア	456
93 クウェート	455
94 アゼルバイジャン	454
95 モンゴル	447
96 アフガニスタン	446
96 日本	446
98 カメルーン	445
99 ハイチ	444
99 ミャンマー	444
101 キルギス共和国	443
102 セネガル	442
103 メキシコ	440
104 ウズベキスタン	429
105 ヨルダン	425
106 スーダーン	421
107 カザフスタン	417
107 ルワンダ	417
109 アンゴラ	413
110 タジキスタン	409

EF EPI 2025 首都 スコア

EF EPI スコア
 ● 非常に高い
 ● 高い
 ● 標準
 ● 低い
 ● 非常に低い



非常に高い英語能力

コペンハーゲン	644
ウィーン	634
ストックホルム	633
アムステルダム	630
ヘルシンキ	628
ベルリン	625
アテネ	616
ソフィア	616
ザグレブ	616
オスロ	615
ブダペスト	613
リスボン	612
リガ	611
ハラレ	610
ブカレスト	608
ケープタウン	603
マニラ	603
ベルン	601
プラチスラヴァ	601
スコピエ	600

高い英語能力

ナイロビ	595
ペオグランド	594
ブエノスアイレス	594
ルサカ	593
ワルシャワ	591
ブリュッセル	588
クアラルンプール	588
クアラルンプール	587
アブジヤ	583
パリ	583
タリン	582
サンティアゴ	578
プラハ	576
キシナウ	572
ビリニス	569
テグシガルバ	565
アスンシオン	563
マドリード	560
ティラナ	557
リマ	555
アクラ	552
ニコシア	552
ソウル	550
トビリシ	550

標準的な英語能力

ミンスク	549
サン・ホゼ	546
ブラジリア	544
アディスアベバ	522
モンテビデオ	544
コロンボ	543
キーウ	543
ラパス	543
ローマ	538
サンosalバドル	538
モスクワ	537
ダッカ	532
ハノイ	532
カトマンズ	531
エレヴァン	530
カラカス	529
イスラマバード	529
ハバナ	528
チュニス	528
サント・ドミニゴ	526
カンパラ	525
ベイルート	523

低い英語能力

ジャカルタ	523
マナグア	523
アディスアベバ	522
グアテマラシティ	519
アルジェ	518
キト	517
ラバト	517
ローマ	538
北京	514
ボゴタ	513
アンカラ	508
マブト	482
テヘラン	485
アブダビ	484
マブト	482
東京	480
ドーハ	479
カイロ	478
ティンپー	477
リヨングウェ	474
ブノンベン	472

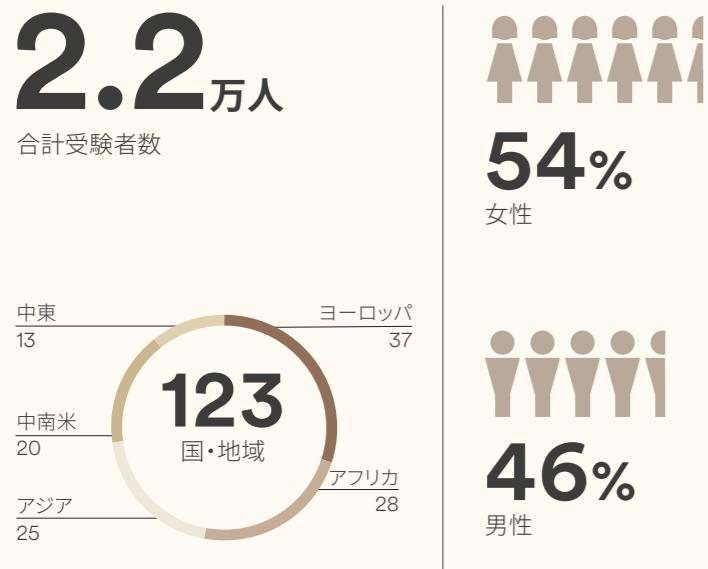
非常に低い英語能力

エルサレム	498
パナマシティ	492
ヴィエンチャン	486
ビシュケク	485
テヘラン	485
アブダビ	484
マブト	482
東京	480
ドーハ	479
カイロ	478
ティンپー	477
リヨングウェ	474
ブノンベン	472
ダマスカス	470
タシケント	469
バンコク	467
バクー	464
アシガバート	463
マヌカット	461
アンタナリボ	461
アスタナ	460
ダカール	459
カブル	457
ウランバートル	454
ヤウンデ	450

1,200を超える地域と都市の英語能力スコア、および国別、地域別の性別、年齢、業種のデータは www.ef.com/epi からダウンロードできます。

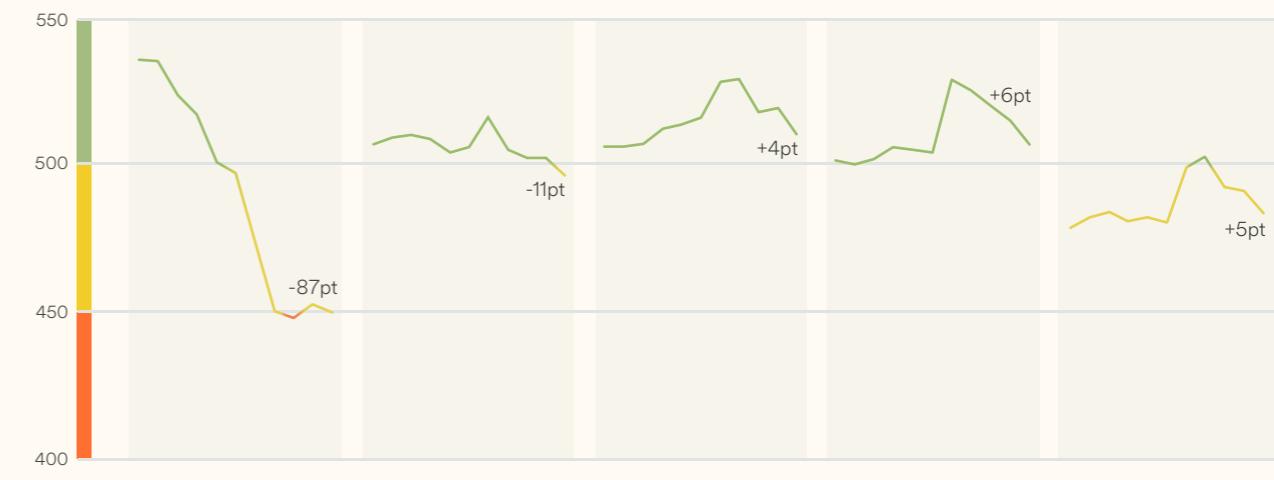
EF EPI 2025 詳細データ

テストの受験者について



26歳
受験者数の平均年齢

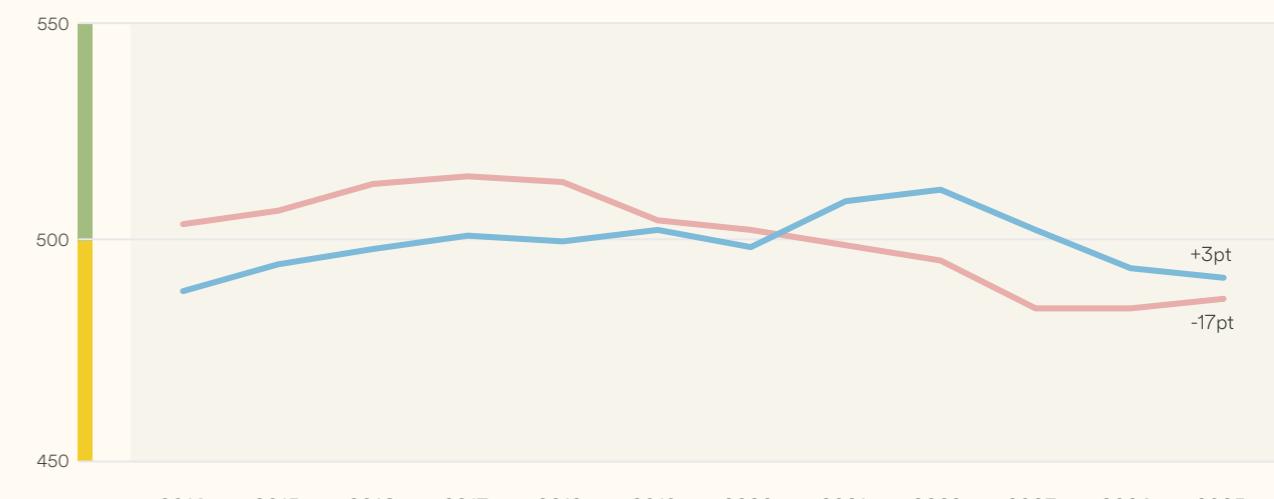
グローバルでの世代の傾向 (2015 - 2025)



地域別の傾向 (2011 - 2025)



グローバルでの男女別の傾向 (2014 - 2025)

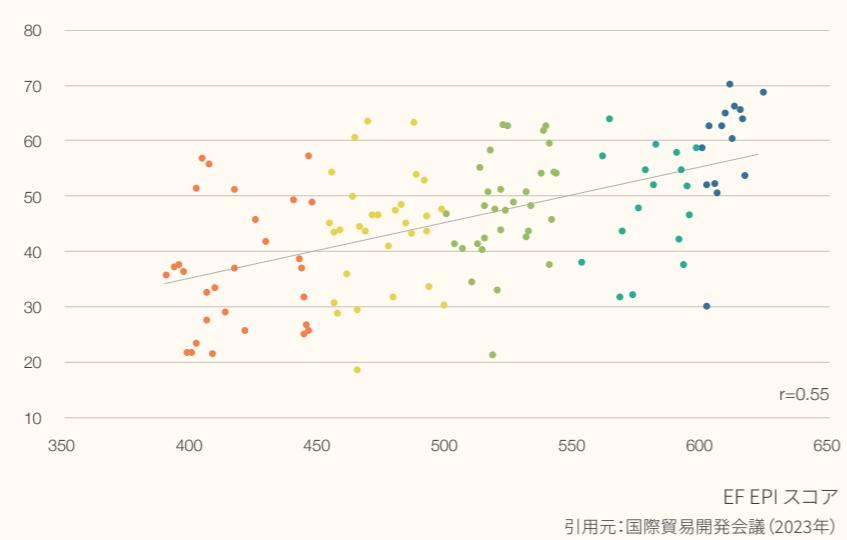


英語と経済

英語能力指数は、その国の労働力が国境を越えてグローバル経済に参画できる能力を示す指標となります。知識集約型産業への移行を進めていたり、英語に対する習熟度が、国際的な基準や業務慣行への適応力を示すサインとなることがあります。このような関係性は、語学教育への投資が、経済の構造転換を目指す政策と補完し合う可能性を示しています。特に、国際市場への統合を進めたい国や、労働人口により多様な就業機会を提供したい国においては、英語力の強化が重要な鍵となります。

グラフ A
英語と生産性

生産性指標

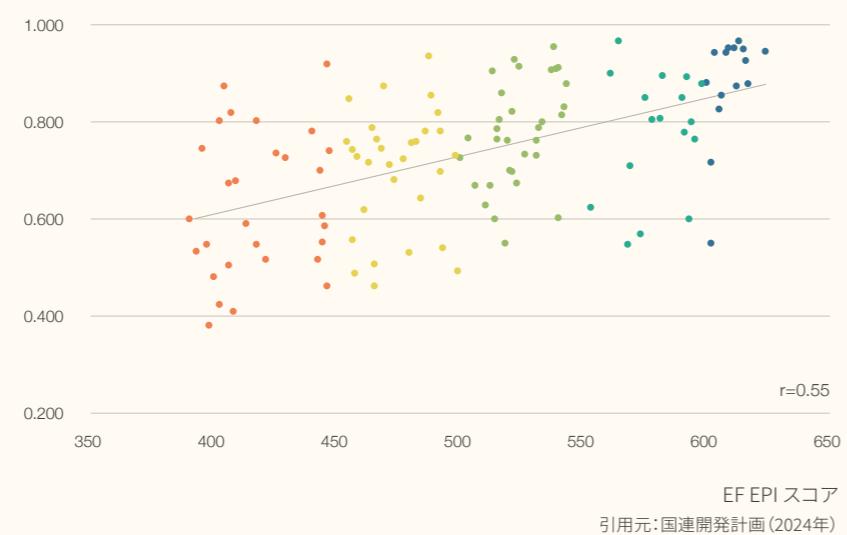


EF EPI スコア

- 非常に高い
- 高い
- 標準
- 低い
- 非常に低い

グラフ B
英語と人間開発

人間開発指数

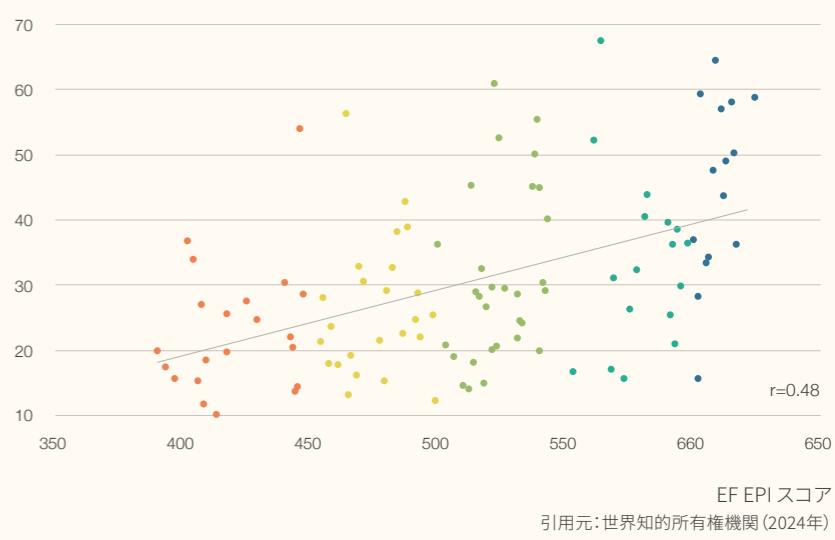


英語とイノベーション

英語力とイノベーション能力は、教育への投資、国際的なつながり、知識交換の枠組みといった共通の基盤によって支えられています。英語が研究成果の普及における共通言語として機能することで、世界中の人々が、医療から再生可能エネルギーに至るさまざまな課題へのアプローチに関する知識にアクセスできるようになります。ただし、最も効果的なイノベーションとは、こうした知見を単に取り入れるのではなく、自国や地域の文脈に即して意味ある形に翻訳・応用することによって生まれます。したがって、英語は「目的」ではなく「架け橋」として、グローバルな知識とローカルな理解をつなぐ対話の媒介となるのです。

グラフ C
英語とグローバルイノベーション

グローバルイノベーション指数



EF EPI スコア

- 非常に高い
- 高い
- 標準
- 低い
- 非常に低い

グラフ D
英語と人財競争力

世界人財競争力指数



職場における英語

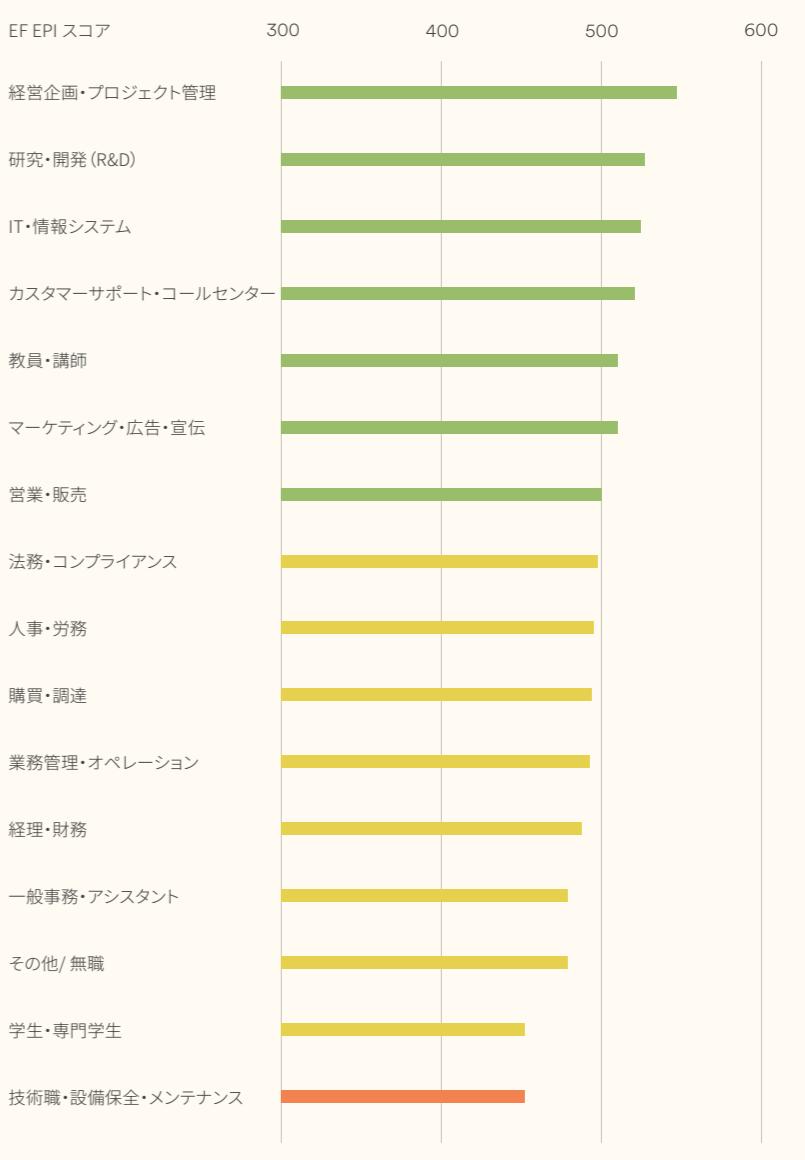
職場環境における英語の重要性拡大は、多くの従業員にとって働き方が根本的に変化していることを示しています。現代の業務はますます協働的で専門性を重視する性格を強め、国際的な連携が不可欠となっています。企業間で激化する競争や複雑なグローバル課題に対処する中で、英語は異なる地域や多様な背景を持つチーム間での相互理解と共通目標の達成を可能にする重要な手段となっています。

業種別英語能力ランキング(EF EPI)



職種別の英語力分布を分析すると、国際協力や多様な情報源へのアクセスが重要な分野において、英語力が最も高い水準を示していることが明らかになっています。**顧客対応やサプライヤー対応の職種では近年英語力の向上が見られ、英語がサービス提供における競争優位として認識され始めていることが示されています。一方、学生や技術職における英語力の課題は、将来の労働力需要や国境を越えた技術移転に対して、現在の教育制度が適切に対応できているかという重要な問題を提起しています。

職種別英語能力ランキング(EF EPI)



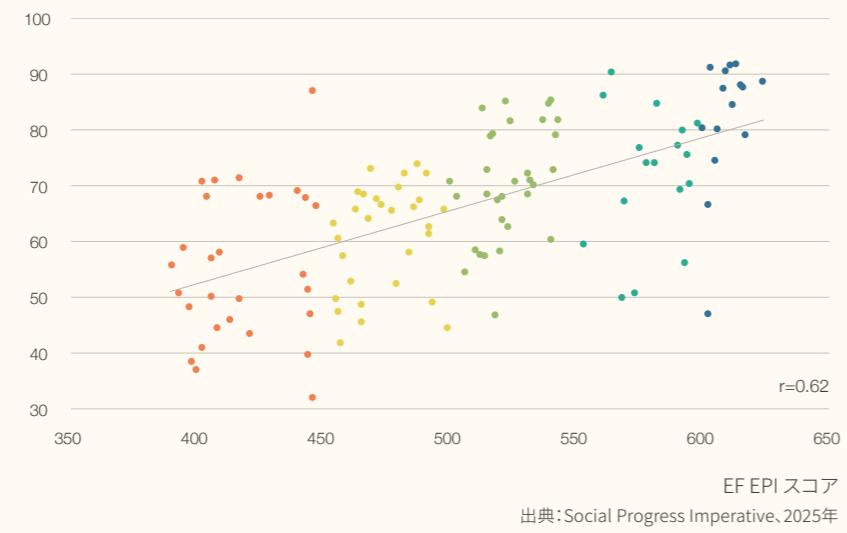
EF EPI スコア ● 非常に高い ● 高い ● 標準 ● 低い ● 非常に低い

英語と社会

母語に加えて英語を使用できる就労者は、より幅広い情報へのアクセスが可能となり、多様な職業機会を獲得することができます。社会的に排除された集団や地理的に不利な条件にある地域の個人にとって、専門的な英語力は、他の手段では得られなかつた可能性のある経済的自立への道筋を提供します。言語能力のみで構造的な障壁を完全に解決することはできませんが、多くの労働市場において英語が高く評価されることから、より公正な社会の実現を目指す他の制度改革や投資を支援する役割を担うことができます。

グラフ E
英語力と社会的進歩の関連

世界社会進歩指数

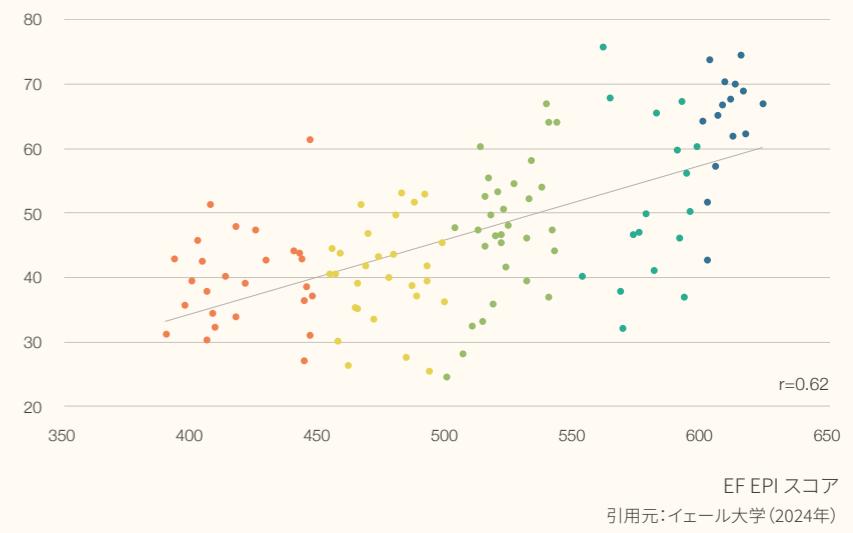


英語と未来

人工知能が社会に大きな変化をもたらそうとしている現在、英語能力は世界中の人々がこれらの技術を効果的に活用するための重要な手段となっています。同時に、偏見(バイアス)やプライバシー保護、将来の労働環境といった新たな課題に対して積極的に取り組むための手段でもあります。また、英語は現代社会が直面するもう一つの重要課題である気候変動問題においても重要な役割を担っています。気候科学者が研究成果を共有し、活動家が連携してキャンペーンを展開し、外交官が解決策について交渉する際の共通言語として機能しています。多様な背景や経験を持つ人々の間での対話を可能にすることで、英語は国境を越えた相互理解の促進と、社会変革に向けた共通意識の形成に貢献しています。

グラフ G
英語力と持続可能性

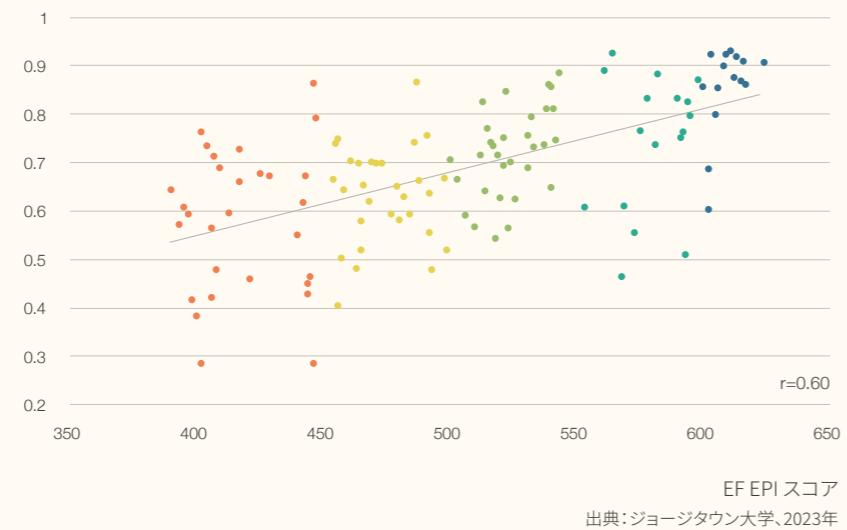
環境パフォーマンス指数



EF EPI スコア

グラフ F
英語力と男女平等

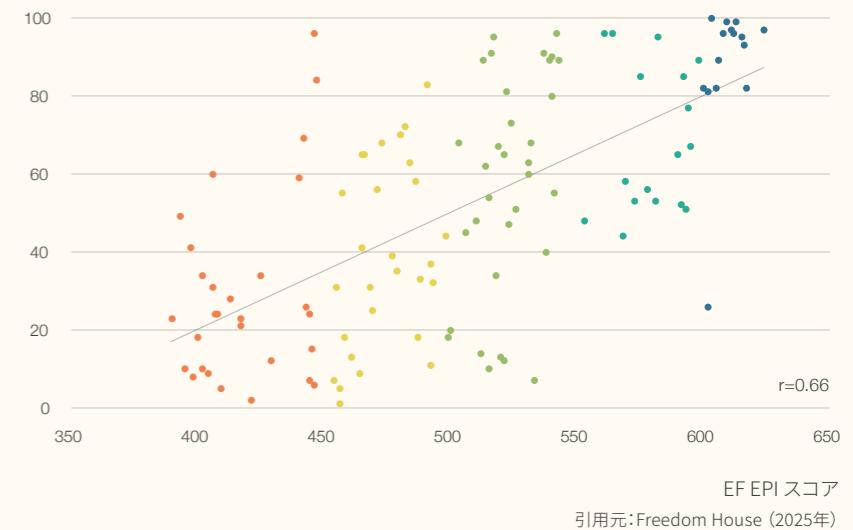
女性の平和と安全指数

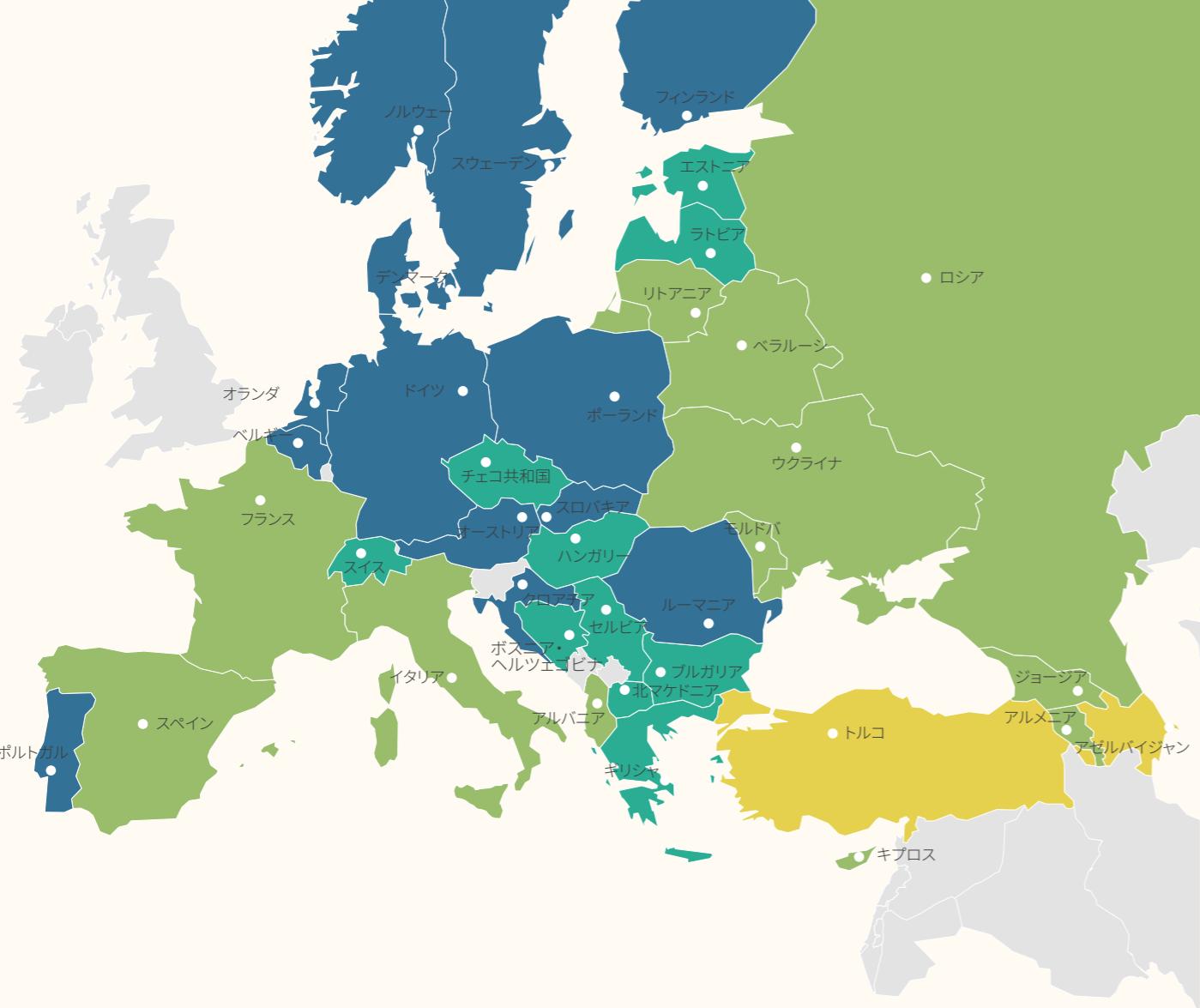


EF EPI スコア

グラフ H
英語力と社会的自由度

世界自由度スコア





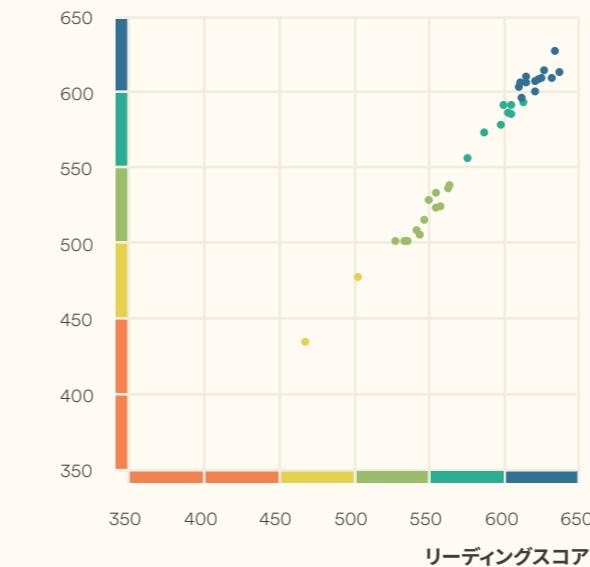
EF EPI ランキング

01 オランダ	624
02 クロアチア	617
03 オーストリア	616
04 ドイツ	615
05 ノルウェー	613
06 ポルトガル	612
07 デンマーク	611
08 スウェーデン	609
09 ベルギー	608
10 スロバキア	606
11 ルーマニア	605
12 フィンランド	603
15 ポーランド	600
16 ラトビア	598
17 北マケドニア	595
18 ブルガリア	594
20 ギリシャ	592
21 ボスニア・ヘルツ エゴビナ	591
22 ハンガリー	590
23 チェコ共和国	582
25 セルビア	578
30 スイス	564
31 エストニア	561
33 リトアニア	543
35 ジョージア	541
36 スペイン	540
38 フランス	539
40 キプロス	537
41 ベラルーシ	533
42 アルバニア	532
43 モルドバ	531
45 ウクライナ	526
49 ロシア	521
56 アルメニア	515
59 イタリア	513
71 トルコ	488
94 アゼルバイジ ヤン	454

EF EPI スコア ●非常に高い ●高い ●標準 ●低い ●非常に低い

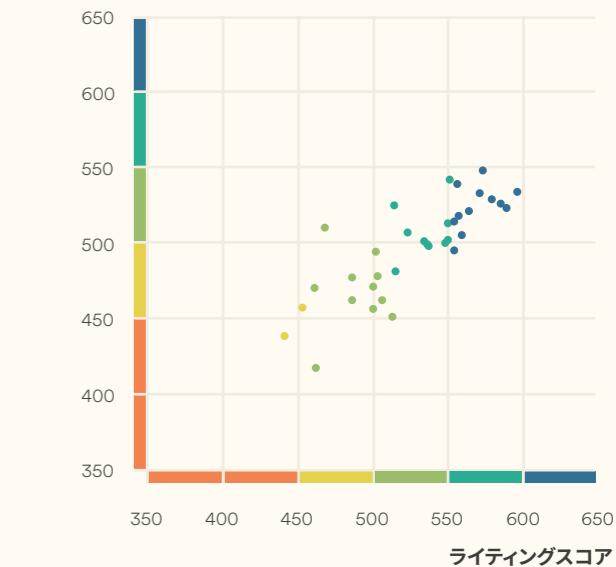
受容スキル (2025)

リスニングスコア

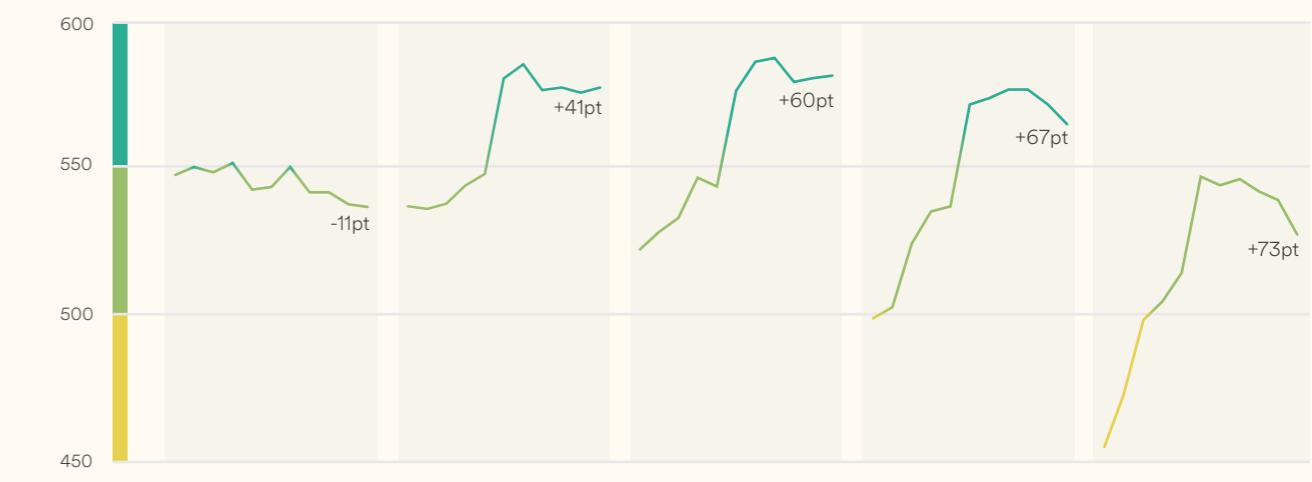


生産スキル (2025)

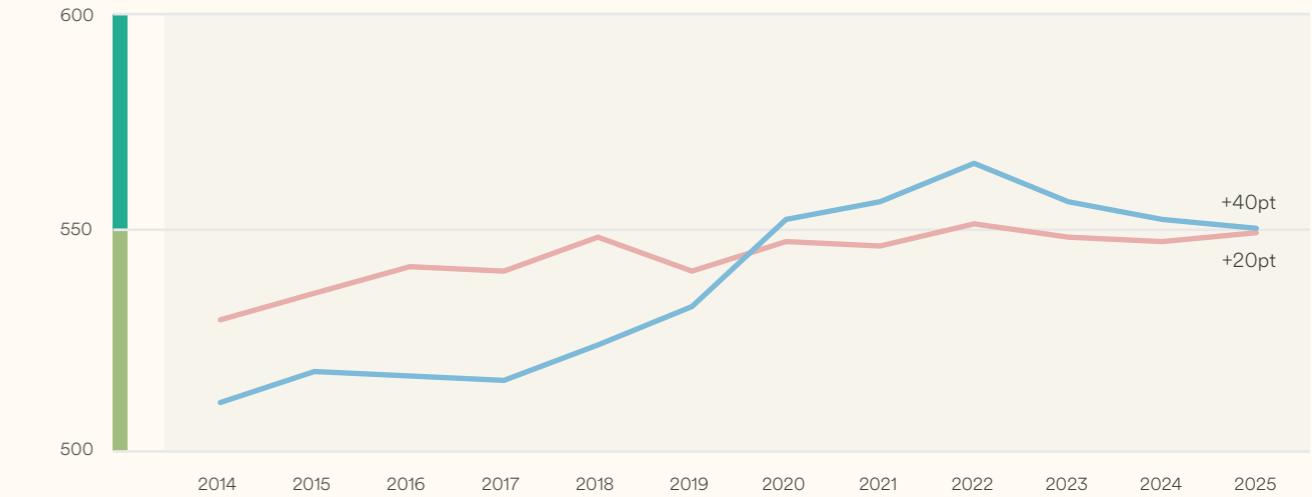
スピーキングスコア

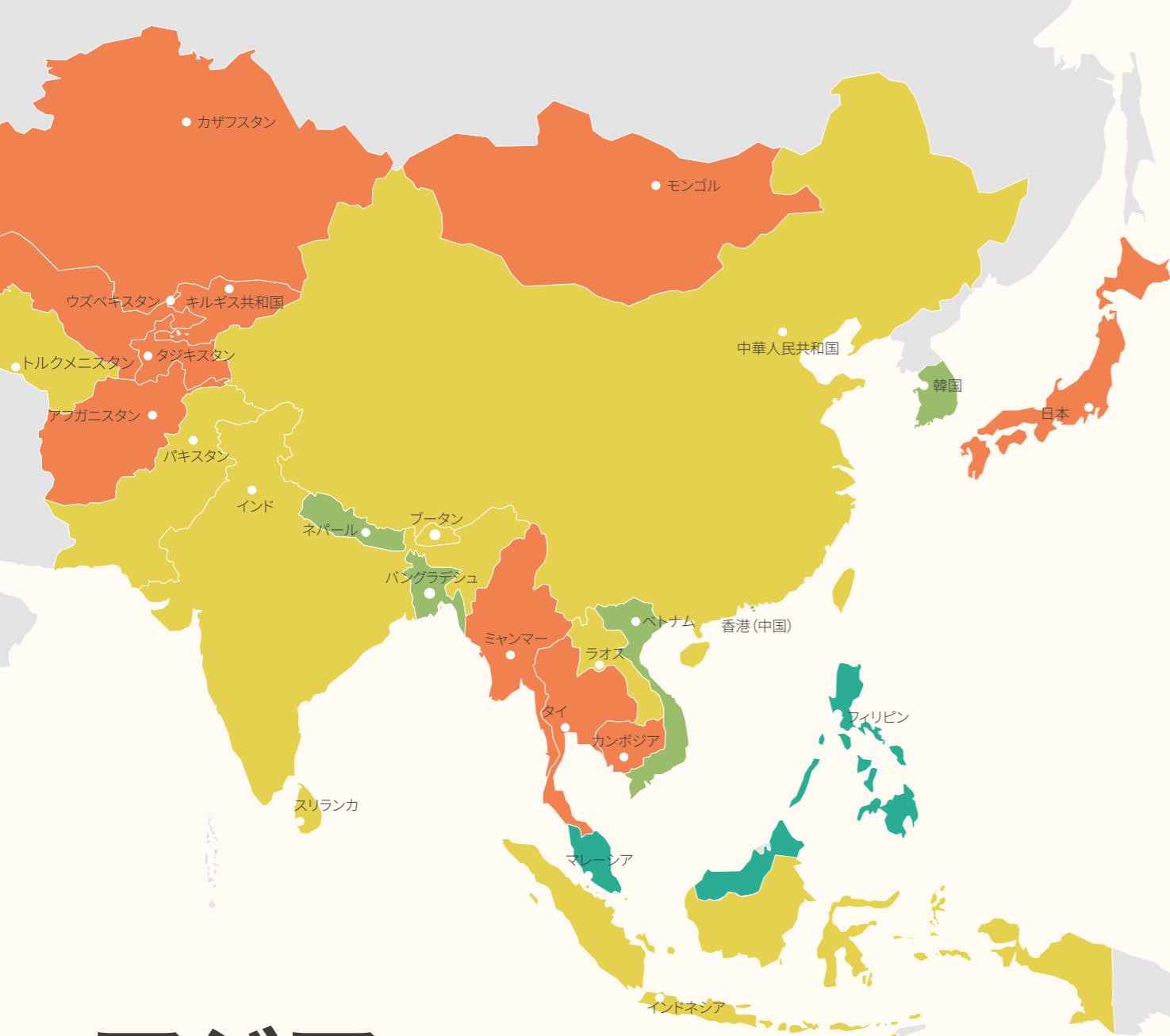


世代間の傾向 (2015 - 2025)



男女の傾向 (2014 - 2025)

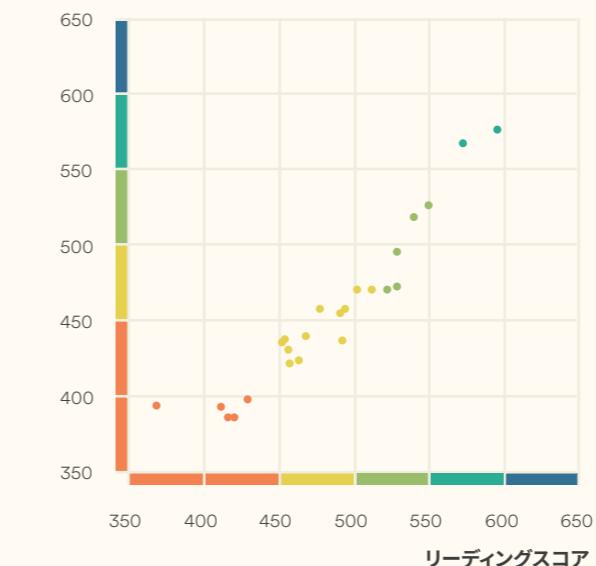




アジア

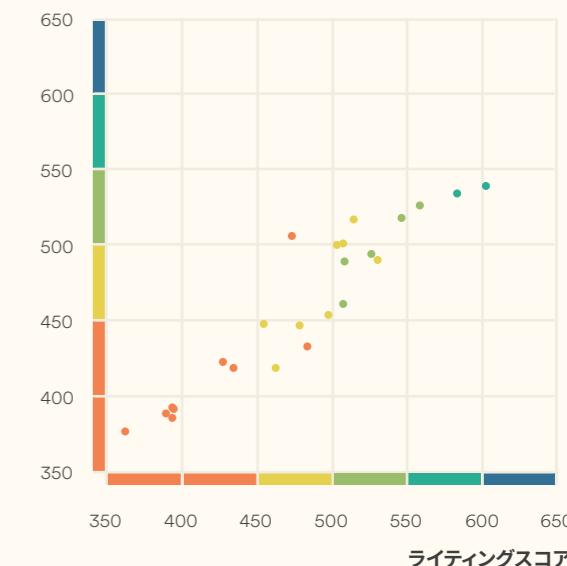
受容スキル (2025)

リスニングスコア

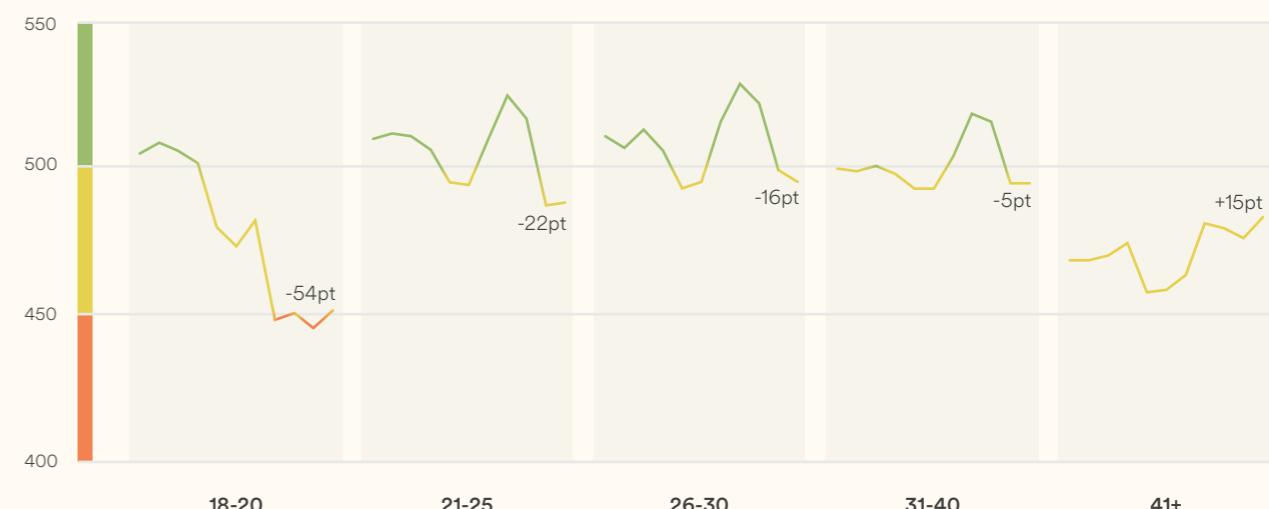


生産スキル (2025)

スピーキングスコア

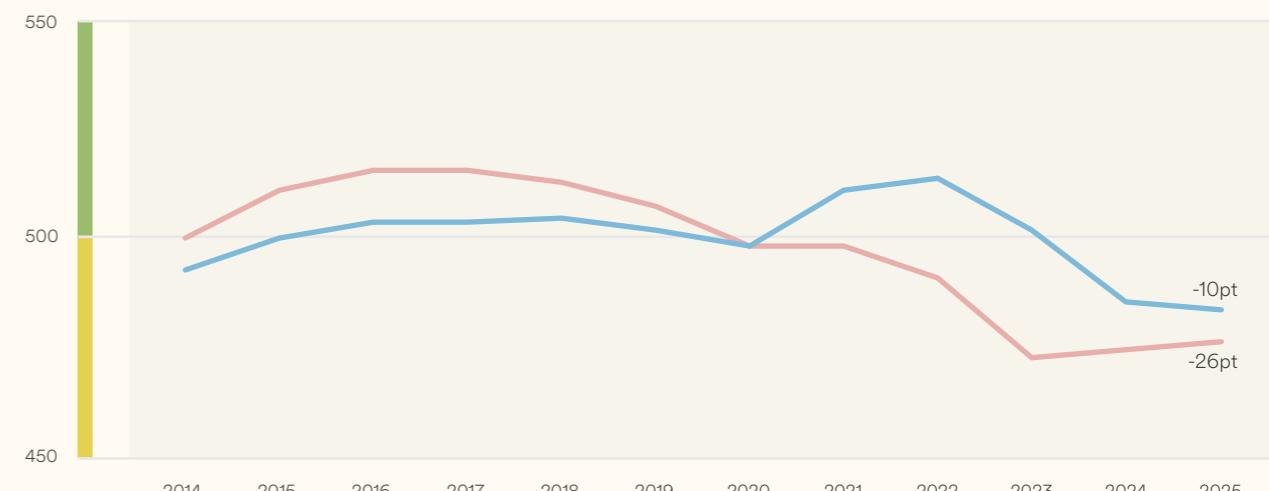


世代間の傾向 (2015 - 2025)



男女の傾向 (2014 - 2025)

■ 女性 ■ 男性



中南米



EF EPI ランキング

26 アルゼンチン	575	56 キューバ	515
32 ホンジュラス	553	60 ニカラグア	512
34 ウルグアイ	542	61 グアテマラ	510
43 パラグアイ	531	63 ドミニカ共和国	503
47 エルサルバドル	523	70 パナマ	491
49 ボリビア	521	75 ブラジル	482
51 ベネズエラ	520	76 コロンビア	480
52 ペルー	519	83 エクアドル	466
54 チリ	517	99 ハイチ	444
55 コスタリカ	516	103 メキシコ	440

EF EPI スコア ●非常に高い ●高い ●標準 ●低い ●非常に低い

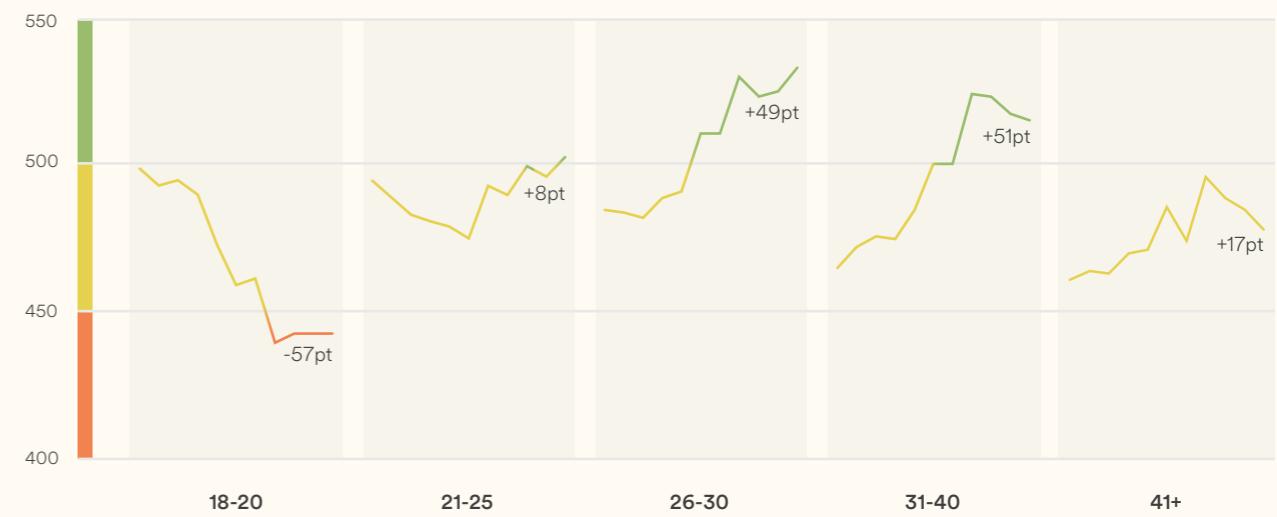
受容スキル (2025)



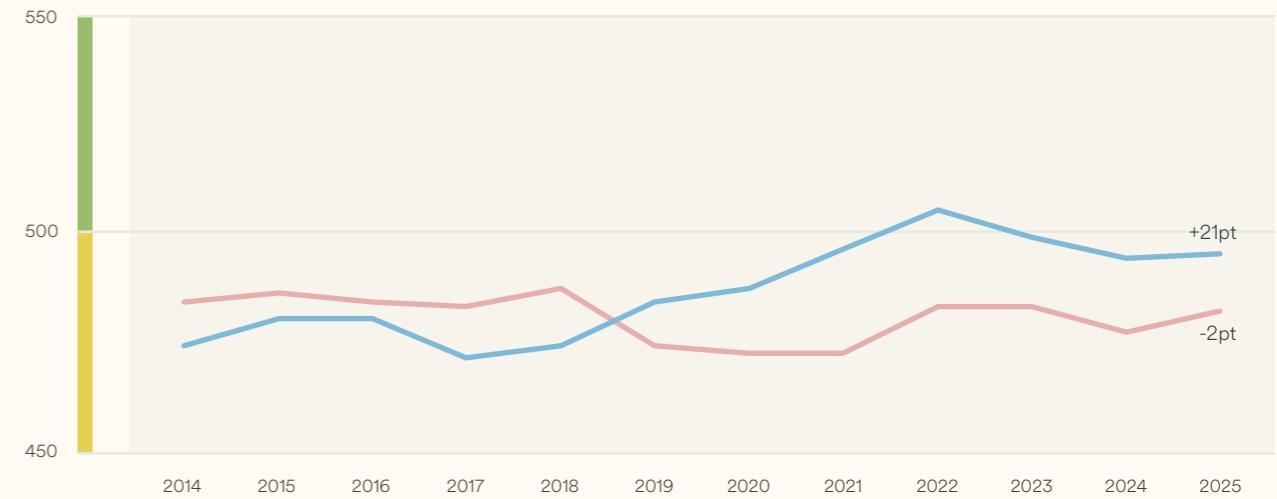
生産スキル (2025)



世代間の傾向 (2015 - 2025)



男女の傾向 (2014 - 2025)



アフリカ

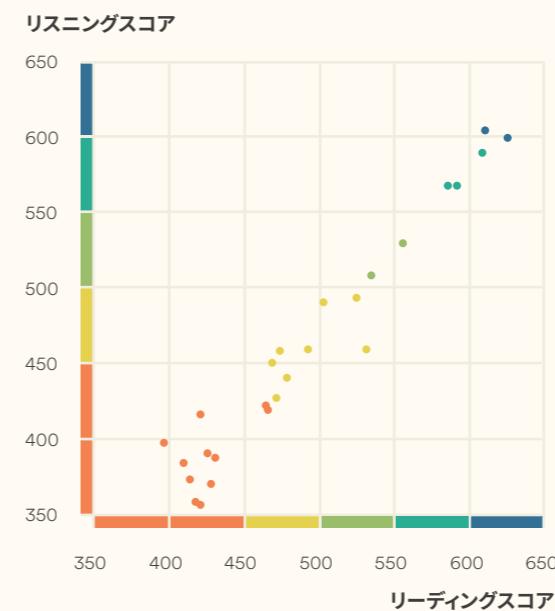
EF EPI ランキング

13 南アフリカ	602	77 タンザニア	479	109 アンゴラ	413
13 ジンバブエ	602	82 アルジェリア	468	111 マリ	408
19 ケニア	593	84 マラウイ	465	113 ベナン	406
27 サンビア	573	84 モザンビーク	465	118 コンゴ民主共和国	400
29 ナイジェリア	568	89 エジプト	458	119 ソマリア	398
36 ガーナ	540	90 マダガスカル	457	120 トーゴ	397
53 ウガンダ	518	98 カメルーン	445	121 リビア	395
65 エチオピア	499	102 セネガル	442	122 コートジボワール	393
66 チュニジア	498	106 スーダーン	421		
68 モロッコ	492	107 ルワンダ	417		

EF EPI スコア ●非常に高い ●高い ●標準 ●低い ●非常に低い



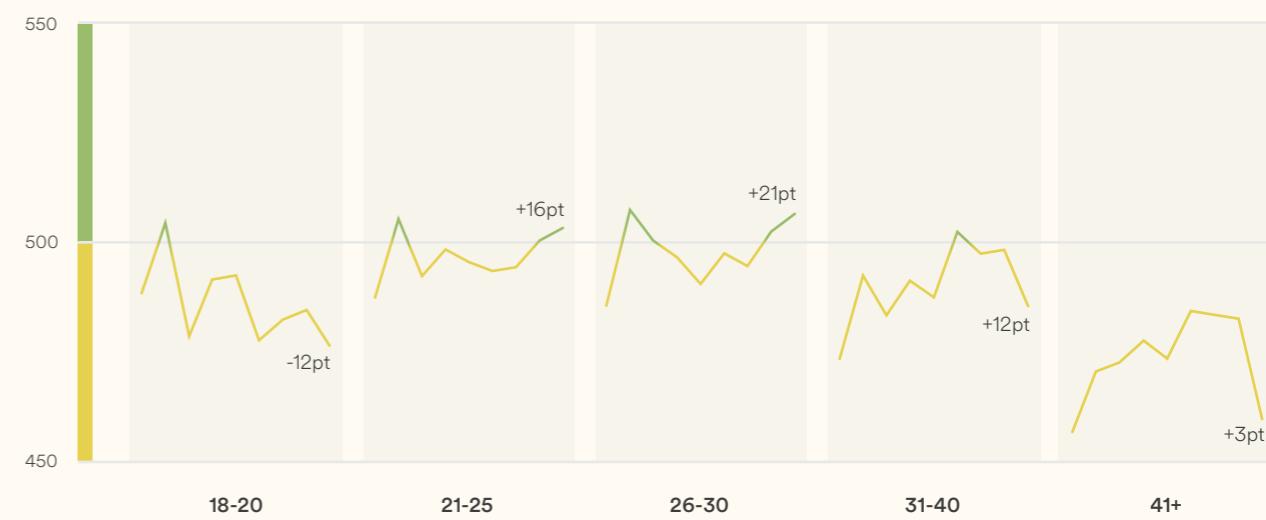
受容スキル (2025)



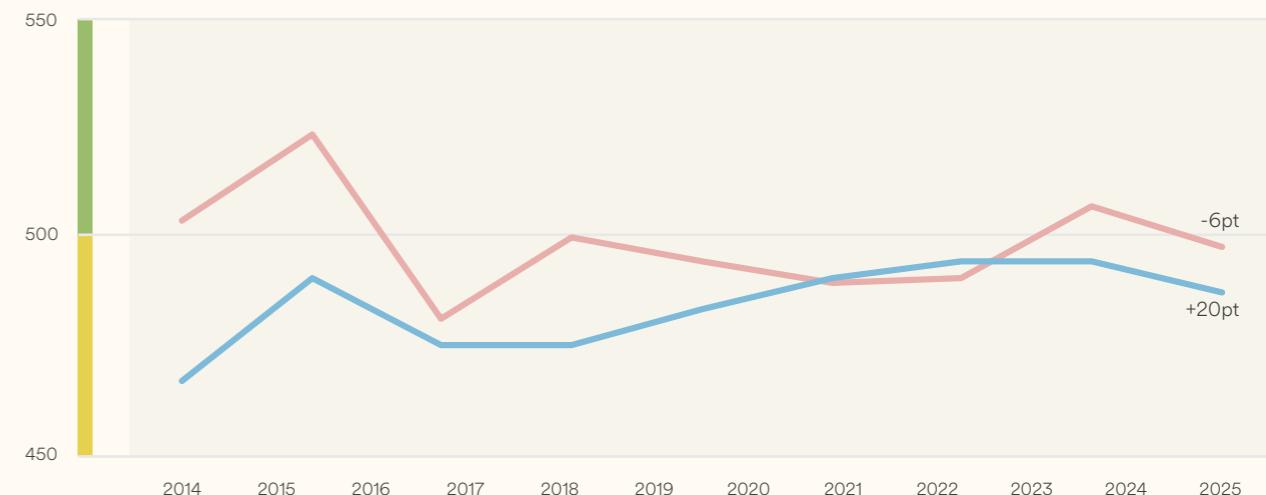
生産スキル (2025)

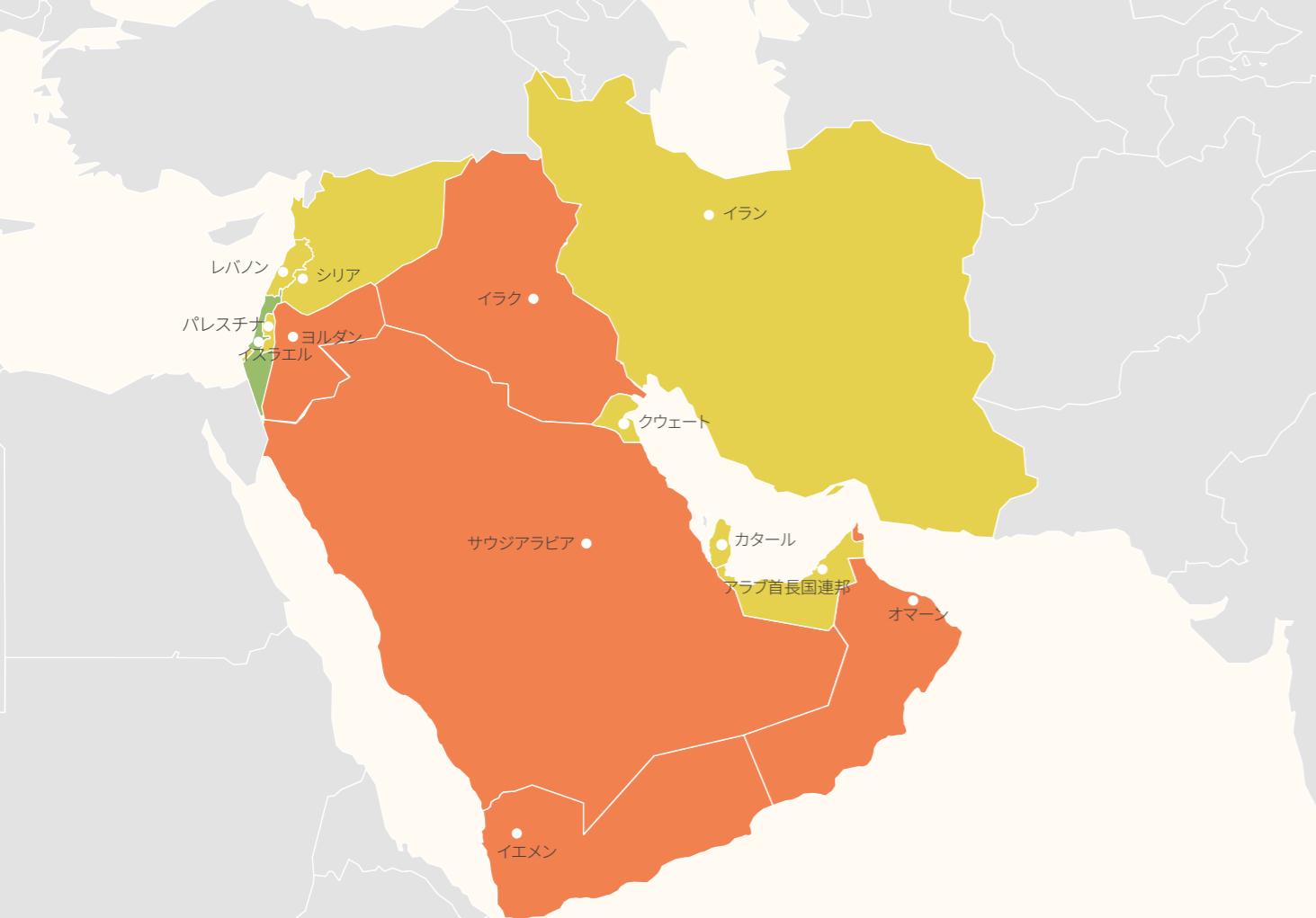


世代間の傾向 (2017 - 2025)



男女の傾向 (2017 - 2025)





中東

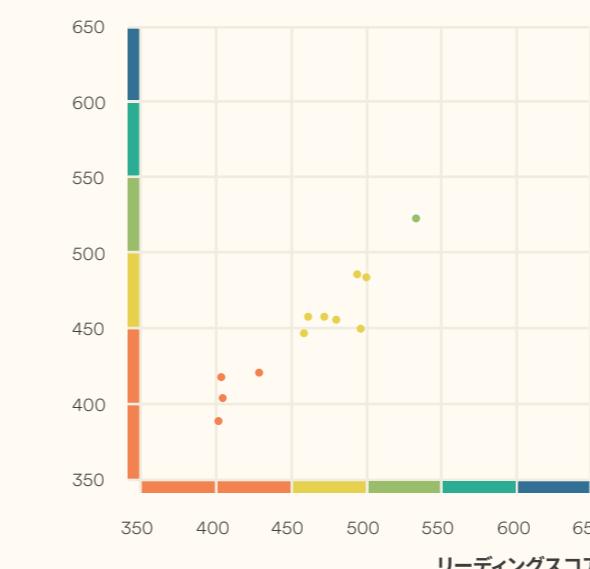
EF EPI ランキング

46 イスラエル	524	93 クウェート	455
68 イラン	492	105 ヨルダン	425
72 アラブ首長国連邦	487	112 オマーン	407
78 レバノン	477	113 イラク	406
81 カタール	469	115 サウジアラビア	404
87 パレスチナ	463	116 イエメン	402
91 シリア	456		

EF EPI スコア ●非常に高い ●高い ●標準 ●低い ●非常に低い

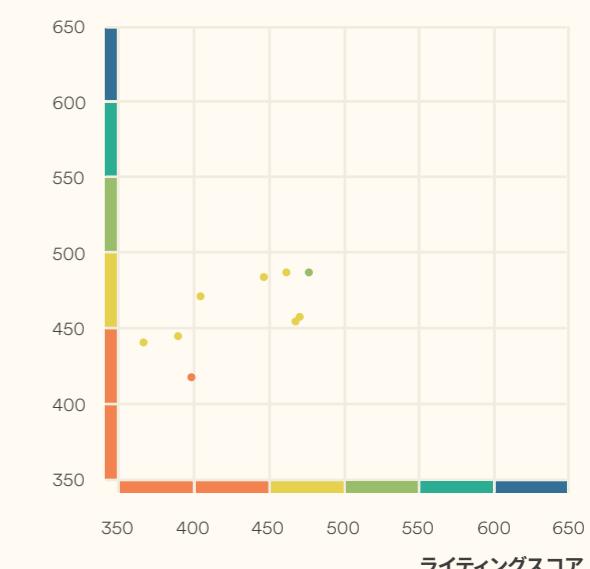
受容スキル (2025)

リスニングスコア

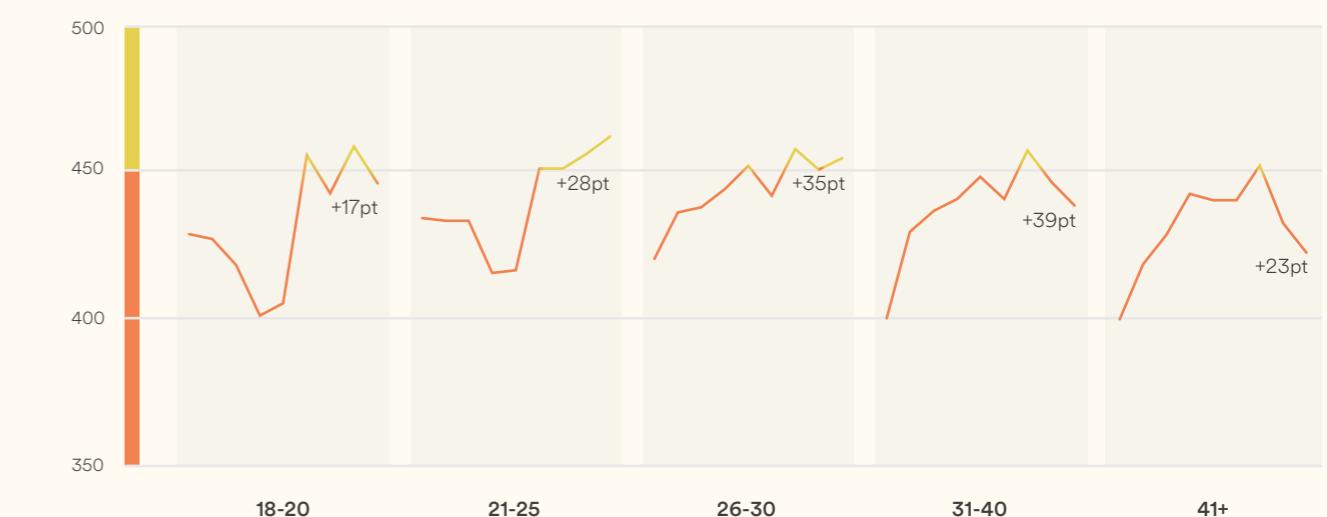


生産スキル (2025)

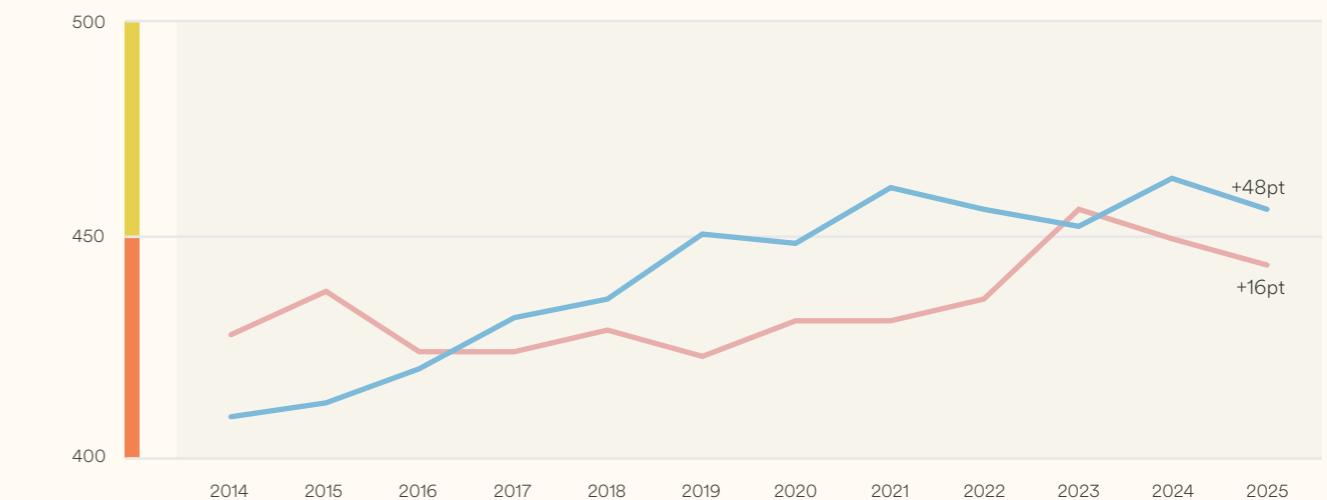
スピーチングスコア



世代間の傾向 (2017 - 2025)



男女の傾向 (2014 - 2025)



英語能力レベルの詳細

詳細については、www.ef.com/epi をご参照ください。



* データが取得されていない地域あり
--- 不完全なデータを含む

英語能力レベルの詳細

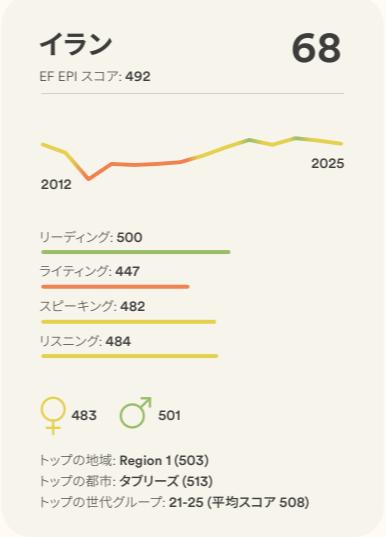
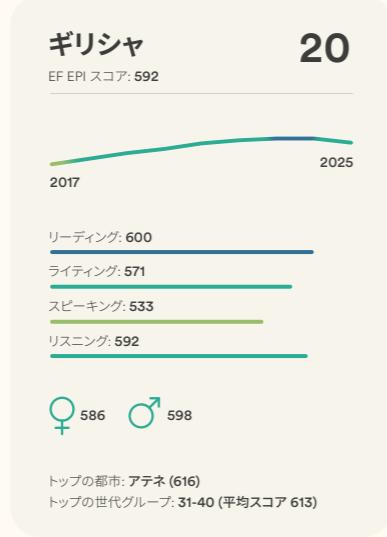
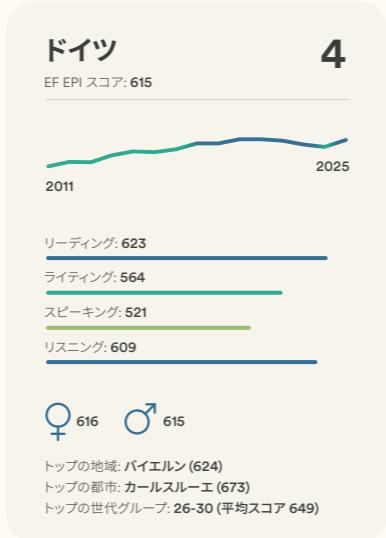
詳細については、www.ef.com/epi をご参照ください。



* データが取得されていない地域あり
--- 不完全なデータを含む

英語能力レベルの詳細

詳細については、www.ef.com/epi をご参照ください。



- * データが取得されていない地域あり
--- 不完全なデーターを含む

英語能力レベルの詳細

詳細については、www.ef.com/epi をご参照ください。



* データが取得されていない地域あり
- - - 不完全なデータを含む

英語能力レベルの詳細

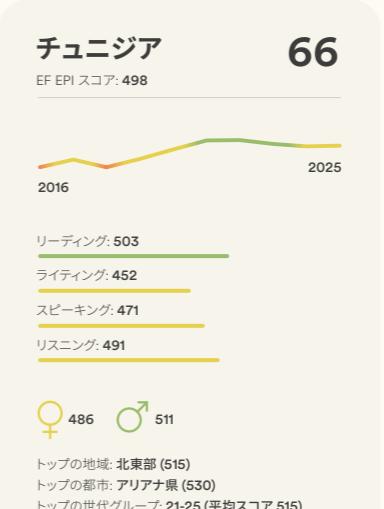
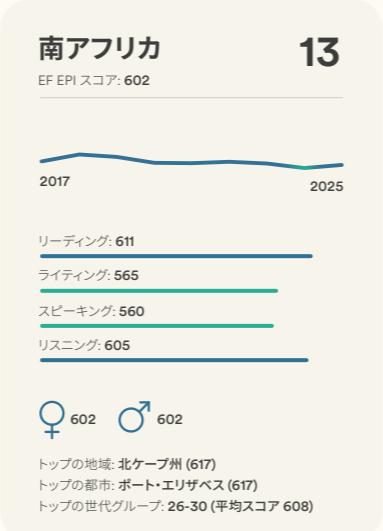
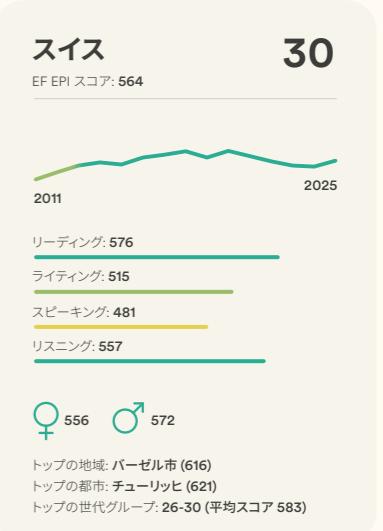
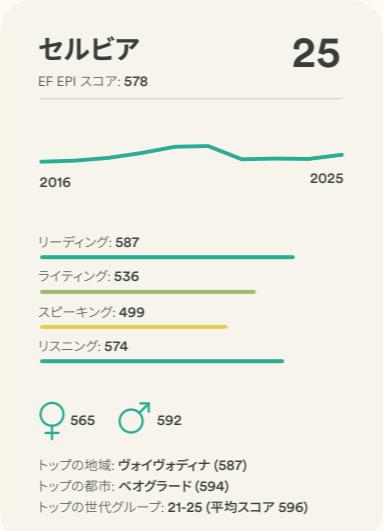
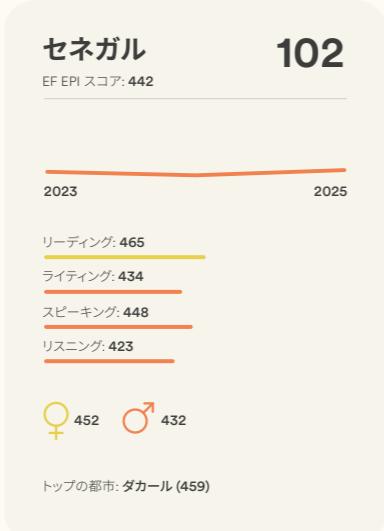
詳細については、www.ef.com/epi をご参照ください。



* データが取得されていない地域あり
--- 不完全なデータを含む

英語能力レベルの詳細

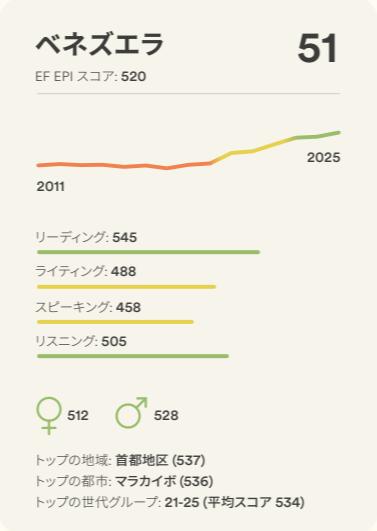
詳細については、www.ef.com/epi をご参照ください。



- * データが取得されていない地域あり
--- 不完全なデーターを含む

英語能力レベルの詳細

詳細については、www.ef.com/epi をご参照ください。



* データが取得されていない地域あり
--- 不完全なデータを含む

今後について

企業、政府、そして個人にとって英語力の向上が価値あるものであることを考えると、この分野への関心と投資が高い水準で継続されているのは当然といえます。しかしながら、言語習得は長期間を要するプロセスであり、多くの困難が伴います。さらに、暗記や文法の正確性を重視する従来の語学教育は効率的とはいえない。言語習得の効果的な方法をより深く理解することで、英語力向上に投じる時間と労力を、個人レベルでも組織レベルでも最適化することが可能になります。

企業向け

- 各人財に対して、現在の英語能力と目標の英語能力との差を縮めるために必要となる時間を考慮した現実的な目標を設定する。
- 各オフィスを含め、国際性と可動性を大切にした企业文化を構築する。
- 海外のチームと頻繁に連携を取りやすくなるプラットフォームを使用する。
- 事務管理部門を含む全ての職務で、様々な国籍の社員を含む多様性のあるチームを構築する。
- 社員全員をテストし、英語スキルの弱点を戦略的に特定する。
- 人財の役割に合うようにチューニングされた英語カリキュラムで従業員を指導する。
- テクノロジーを活用して柔軟性の高い学習を大規模に行う。
- 役割ごとに英語能力の最低基準を設け、それらの基準が満たされているかテストする。
- 時間をかけて英語力の向上をした人財に褒賞を与える。
- 英語学習の体験談を共有することで経営陣や管理職クラスが従業員の手本となる。
- 全社員に対して英語学習へのアクセスを優先する。
- 全チームに好奇心を抱き学びに繋げる文化を浸透させる。
- AI活用能力と責任ある使用方法について職員を教育する。AIは語学スキル向上を支援できるが、過度に依存する危険性もある。

公的機関および教育委員会向け

- 現在の職務のためだけでなく今後のキャリア構築も見据て、全ての公務員の英語スキルを評価し、必要に応じてトレーニングを提供する。
- 教師と受講者の両方を対象に大規模な評価基準を設け、ベンチマークを設定した上で、長期的な進捗を追跡する。
- 英語によるコミュニケーションスキルを評価できるよう入学試験と卒業試験を構築する。
- 全ての新人教師のトレーニングプログラムに英語を含める。
- 他の指導法で訓練を受けた英語教師に対し、実践的な指導法のトレーニングを再度行う。
- 指導に十分な英会話力を持った教師のみが英語を指導できるような制度を設ける。
- 英語を指導するための最低基準を設け、定期的に指導員のテストを行い、基準に満たない者をトレーニングする。
- 子供たちに母語での読み書きを最初に教える。

教育機関・教職員向け

- 英語の指導に、コミュニケーション重視のアプローチを採用する。
- 間違いばかりに目を向けるのではなく、コミュニケーションがうまくいったことを重要視する。
- トレーニング外でも英語メディアに触れ、受講者が好きなことを共有するなどの機会を提供する。
- 教師が自身の英語向上に取り組める明確な道筋を示す。
- 教師が効果的な英語教育に関する効果的な実践例を共有し、助言を得られる場を提供する。
- すべての教師に、英語能力向上のための簡単なプログラムやカリキュラムと、そのための時間を与える。
- 大学の全ての専攻で英語を必須科目にする。
- 生徒と教授の両方の英語レベルが条件を満たす場合は、教科を英語で指導するのを許可する。
- 英語能力が伸び悩んでいる受講生のために、英語の補習プログラムを設ける。
- 英語授業計画におけるAI活用について教師を指導し、学術コミュニティ全体でのAIツール使用状況について開かれた議論を促進する。

個人向け

- コツコツ続け、次の能力レベルに上がるためには何百時間もかかることを理解しておく。
- 段階が上がるにつれ、能力が向上していることを認識し、自分の成長を褒める。
- 数分でもよいので、毎日英語を学習する。
- 最大1時間のセッションで学習し、集中力が衰えたと感じたら休憩を取りましょう。
- 実現可能な目標を具体的に設定し、書き出しておく。
- 仕事や研究分野に関連する語彙を暗記し、すぐに使ってみる。
- 本を音読するだけでもよいので、会話の練習をする。
- 休憩時間を使って楽しめる英語コンテンツを見つける。
- 英語でテレビを見たり、本を読んだり、ラジオを聞いたりする。
- 英語圏に旅行するときは、街の標識、ラベル、広告を読むこと。店員やホテルのフロント、道行く人にもできるだけ話す。
- ソーシャルメディアは英語設定に変更し、PCやアプリ、お気に入りのAIは英語で利用する。
- オンラインレッスンを取り入れて、定期的な会話練習と教師とのコミュニケーションの機会を設けることも検討してみましょう。
- 定期的に終わった仕事に立ち返り、改善を試みる。
- 大規模言語モデル(LLM)を活用して英語学習の課題を克服し、理解が困難な概念の習得や文章作成に対するフィードバック取得に役立てる。これらのツールは近道として使用するのではなく、学習手段として活用する。

この指標について

分析方法

このEF EPI英語能力指数2025は、2024年にEF SETまたは当社の英語プレイスメントテストのいずれかを受験した全世界220万人以上の受験者のテストデータに基づいて作成されています。

EF SET

EF SETは、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの各技能を測定するオンライン適応型英語テストです。客観的採点方式を採用し、受験者の言語能力をヨーロッパ言語共通参考枠(CEFR)が定める6段階のレベルに分類することを目的として設計されています。EF SETはインターネット利用者であれば誰でも無料で受験できます。EF SETの研究開発に関する詳細情報については、www.efset.org/about/をご参照ください。

EF EPI英語能力指数2025の得点は、TOEFL iBT 2023の得点($r=0.74$)およびIELTS Academic Test 2024の得点($r=0.61$)と強い関係があることが明らかになりました。これらの相関関係は、これらのテストのデザインや受験者プロフィールは異なるものの、国民の英語力における傾向は似ていることを示しています。

受験者に関して

EF EPI 英語能力指数の試験受験者サンプルは、受験者が言語学習の意欲がある人、および若年成人に偏る傾向がありますが、男女の人数に差はなく、幅広い年齢の成人言語学習者が含まれています。

- 女性受験者はサンプル全体の46%、男性受験者は40%、性別を記入しなかった受験者は14%でした。
- 年齢情報を提供した受験者の平均年齢は26歳で、85%が35歳未満、99.5%が60歳未満でした。全体の10%は出生年の情報を提供していません。
- 男性受験者の平均年齢は27歳で、女性受験者の中央値である26歳をわずかに上回りました。

受験者数が100人以上の都市と地域、400人以上の国のみが対象になっていますが、ほとんどの場合、これを大きく上回る受験者数が確認されました。

サンプリングの偏り

指標に含まれる受験者は任意で受験した人に限り、その国全体のレベルを代表するわけではありません。また、英語学習へのモチベーションが高い人、自分の英語能力に興味がある人などがテストに参加している可能性が高く、ランダムな母集団のスコアと比較した場合、スコアにより偏りが生じる可能性があります。

EF SETは無料でオンライン受験ができるため、インターネット接続可能な人であればどなたでも参加することができます。受験者のほぼ全員が社会人ないし新卒世代であり、インターネットにアクセスできない人々は含まれていません。本テストは、さまざまなデバイスに対応できる柔軟性を備えており、2024年の受験者の46%がモバイル端末でテストを受けています。また、インターネットの利用率が低い地域では、オンラインでの受験が難しく、それによってサンプリングバイアス(経済的に不利な人々や教育水準の低い人々が除外されること)が生じ、得点が高くなっている可能性があります。しかし、インターネットを使った自由参加型の試験方法は、広範囲にわたる指標に対し膨大なデータを収集するのに効果的であり、世界における英語能力レベルに関する貴重な情報を提供する手段であることは間違ひありません。

スコアの計算法

EF EPI スコアの計算は、指標を安定させ、毎年のサンプリングの誤差を軽減するためには、3年分のスコアのローリング平均を使って算出されています。まず、その国に居住する全受験者が前年中に達成したEF SETスコアの平均を算出し、次に、それ以前の2年分の公表済みのEF EPIスコアと平均しています。さらに、業種や職能、年功序列レベルについても、同様の方法でスコアを算出しています。

各国のEF EPI スコアが算出された後、これらを用いて世界地域(ヨーロッパ、アジアなど)および全世界のスコアを計算します。これらのスコアは国別人口による加重平均で算出されるため、例えばアジア地域のスコア計算において、インドのスコアはベトナムよりもはるかに大きな重みを持ちます。この方法は、国家を超えたレベルで算出されるすべてのスコア(世界および地域スコア、ならびにそれらの性別・年齢層別内訳)に適用されます。

国内のサブグループのスコアは、人口加重されていないデータになります。これらは、全国スコアに対する整合性を確保するために調整された3年間のローリング平均として計算されます。

今年初めて公表されるスキル別スコアは、各国内でのそのスキルの平均値として算出されています。例えば、ドイツのスピーキングスコアは、2024年にドイツで実施されたすべてのスピーキングテストの平均値です。各国のスキル別スコアは、ほとんどの場合、国別総合スコアの平均値とは一致しません。大部分の国において、スピーキングとライティングの技能テストを選択した受験者は全体の20%未満でした。

スコアしきい値に基づき、国、地域、および都市は能力別グループに分けられています。能力別グループに分けることで、どの国が同等の英語能力を持っているか認識でき、また近隣諸国との比較も可能になります。

CEFR EF EPI スコア EF EPI バンド

CEFR	EF EPI スコア	EF EPI バンド
C2	700-800	非常に高い
C1	600-699	非常に高い
B2	550-599	高い
	500-549	標準
B1	450-499	低い
	400-449	非常に低い
A2	300-399	非常に低い
A1	200-299	非常に低い
Pre-A1	1-199	非常に低い

その他のデータソース

EF EPIは、国家試験の結果や言語世論調査データ、またはその他いかなるデータと競合することも、否定することも目的としていません。これらのデータセットは、むしろ互いを補完しあうものであり、年齢層、国、地域、受験者のプロファイルなどがより具体的であるものの、範囲が限定された調査やテストとは対照的に、EF EPIでは、世界中の社会人を対象に、共通の評価方法を用いて調査を行っています。これほどの規模と範囲を持つデータセットは他には存在せず、政策立案者をはじめ学者やアナリストと、英語教育についての世界的な議論を開拓する上でも、価値ある参考資料になると考えています。

EF EPIは、EuromonitorやGallupなどの世論調査機関、あるいはOECDによる学習到達度調査(PISA)や国際成人力調査(PIAAC)などの能力調査とは異なるプロセスで作成されています。これらの調査では、年齢、性別、教育水準、所得などの複数の要素を考慮して調査対象者を抽出しており、調査パネルは小規模であることが多い、参加者は多くとも数千人程度ですが、複雑なサンプリング手法を用いて調査を実施しているため、全人口を代表していると考えられています。

PISAは2025年に初めて外国語としての英語評価を実施予定であり、15歳の技能レベルを基準として測定するため、EF EPIとの興味深い比較データセットを提供することになります。

英語能力に関するもう一つのデータソースとして、国の教育制度に関する集計データがあります。多くの大学では、高校生や大学受験生全員を対象に全国統一の英語能力テストを実施しており、(結果が公表されている場合とされていない場合もあり)教育関係者や政府関係者はこうしたデータをもとに教育改革の効果を評価し、改善点を洗い出しています。しかし、こうした全国規模のテストは、他国と同条件で比較することが難しく、さらに、成人を対象としているため、世界の高校生の英語能力に関する情報は得られるものの、国際比較や、成人の英語能力レベルを把握するうえでは有用ではありません。

EF Education First

EF (Education First) は、言語、学術、文化交流、教育旅行を専門とする国際教育企業です。1965年に設立され、「Opening the world through education - 教育を通じて世界を開く」をミッションとしています。これまで数百万人の学生、企業、組織がEFプログラムに参加しています。EF英語能力指数は、Signum International AGにより発行されています。

Efektaについて

Efekta Education Groupは、大規模な教育成果の向上を目指す革新的な教育技術企業です。EfektaはEFグループの企業です。



EF EPI 能力レベル

EF EPI能力レベルについて

EF英語能力指数は、調査対象の国・地域を「非常に高い」から「非常に低い」まで5つの能力レベル帯に分類しています。このレベル帯により、類似した技能レベルを持つ国・地域の特定が容易になり、地域間および地域内での比較が可能になります。

右の一覧では、各能力レベルにおいて個人がどのようなタスクを行うことができるかを示すタスク例を紹介しています。タスクは包括的に選択されたものではありませんが、レベル間においてどのように英語スキルが向上していくかを理解するための参考資料としてお役立てください。

英語能力レベルについては、平均的な受験者の能力を示しているに過ぎないことを念頭に置くことが重要であり、本テストは国や地域を比較することを目的としており、個々の強みや弱みは反映されません。

能力レベル	タスク例
非常に高い オランダ ルーマニア ジンバブエ	✓ 社会生活の場面で正しい意味合いを持たせた適切な言語を使用できる ✓ 高度な文章を簡単に読むことができる ✓ ネイティブスピーカーと契約交渉ができる
高い ケニア マレーシア ホンジュラス	✓ 職場でプレゼンを行っている ✓ テレビ番組を理解できる ✓ 新聞を読む
標準 フランス 韓国 ペルー	✓ 専門分野における会議に参加している ✓ 歌の歌詞を理解することができる ✓ 熟知した内容についてプロフェッショナルなメールを書くことができる
低い モロッコ ブラジル インドネシア	✓ 観光客として英語を話す国を旅することができます ✓ 同僚とちょっとした会話ができる ✓ 同僚からの簡単なメールを理解できる
非常に低い 日本 メキシコ イエメン	✓ 簡単な自己紹介(名前、年齢、出身国)ができる ✓ 簡単な合図を理解できる ✓ 海外からの訪問者に基本的な指示をすることができる

CEFR レベルと Can-Do自己評価

熟練者

- C2
- ・聞いたり、読んだりしたほぼ全てのものを容易に理解することができる。
 - ・いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構成できる。
 - ・自然に、流暢かつ正確に自己表現ができ、非常に複雑な状況でも細かい意味の違い、区別を表現できる。

- C1
- ・いろいろな種類の高度な内容のかなり長い文を理解することができ、含意を把握できる。
 - ・言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。
 - ・社会的、学問的、職業上の目的に応じた柔軟かつ効果的な言葉遣いができる。
 - ・複雑な話題について明確で、しっかりと構成の詳細な文を作ることができる。

自立した言語使用者

- B2
- ・自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑な文の主要な内容を理解できる。
 - ・流暢で自発的な対話ができ、他の話者との一般的な交流が、お互いに無理なくできる。
 - ・かなり広汎な範囲の話題について、明確で詳細な文を作ることができ、さまざまな選択肢について長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる。

- B1
- ・仕事、学校、娯楽で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。
 - ・特定の言語を話されている地域を旅行しているときに起こりそうな大抵の事態に対処することができる。
 - ・身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈絡のある文を作ることができる。
 - ・経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べることができる。

基礎段階の言語使用者

- A2
- ・具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。
 - ・簡単で日常的な範囲内で、身近で日常の事柄についての情報交換に応じることができる。
 - ・自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。

- A1
- ・具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。
 - ・自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。
 - ・もし、相手がゆっくり、はっきりと話して助け船を出してくれる場合に簡単なやり取りをすることができる。

ヨーロッパ評議会の言葉

EF EPI の全ての参加国はレベルA2～C1の範囲に分類されます。

EF EPI 各国・地域スコア

各地域の英語力に
おける変化の年次比較

	EF EPI 2025年版	EF EPI 2024年版	スコアの推移	EF EPI 2025年版	EF EPI 2024年版	スコアの推移	
オランダ	624	636	-12	ベネズエラ	520	510	10
クロアチア	617	607	10	ペルー	519	519	0
オーストリア	616	600	16	ウガンダ	518	518	0
ドイツ	615	598	17	チリ	517	525	-8
ノルウェー	613	610	3	コスタリカ	516	534	-18
ポルトガル	612	605	7	アルメニア	515	537	-22
デンマーク	611	603	8	キューバ	515	520	-5
スウェーデン	609	608	1	ネパール	514	512	2
ベルギー	608	592	16	イタリア	513	528	-15
スロバキア	606	584	22	ニカラグア	512	505	7
ルーマニア	605	593	12	グアテマラ	510	507	3
フィンランド	603	590	13	バングラデシュ	506	500	6
南アフリカ	602	594	8	ドミニカ共和国	503	503	0
ジンバブエ	602	-	新規	ベトナム	500	498	2
ポーランド	600	588	12	エチオピア	499	498	1
ラトビア	598	-	もう一度読み込む	チュニジア	498	496	2
北マケドニア	595	-	新規	パキスタン	493	493	0
ブルガリア	594	586	8	iran	492	499	-7
ケニア	593	581	12	モロッコ	492	479	13
ギリシャ	592	602	-10	パナマ	491	488	3
ボスニア・ヘルツェゴビナ	591	-	もう一度読み込む	トルコ	488	497	-9
ハンガリー	590	585	5	アラブ首長国連邦	487	489	-2
チェコ共和国	582	567	15	スリランカ	486	486	0
マレーシア	581	566	15	インド	484	490	-6
セルビア	578	568	10	ブラジル	482	466	16
アルゼンチン	575	562	13	コロンビア	480	485	-5
ザンビア	573	-	新規	タンザニア	479	487	-8
フィリピン	569	570	-1	レバノン	477	492	-15
ナイジェリア	568	557	11	ブータン	473	-	新規
スイス	564	550	14	インドネシア	471	468	3
エストニア	561	578	-17	カタール	469	480	-11
ホンジュラス	553	545	8	アルジェリア	468	471	-3
リトアニア	543	569	-26	エクアドル	466	465	1
ウルグアイ	542	538	4	マラウイ	465	447	18
ジョージア	541	543	-2	モザンビーク	465	469	-4
スペイン	540	538	2	中華人民共和国	464	455	9
ガーナ	540	534	6	パレスチナ	463	448	15
フランス	539	524	15	ラオス	461	-	もう一度読み込む
香港(中国)	538	549	-11	エジプト	458	465	-7
キプロス	537	558	-21	マダガスカル	457	463	-6
ベラルーシ	533	539	-6	シリア	456	473	-17
アルバニア	532	533	-1	トルクmenistan	456	-	新規
モルドバ	531	536	-5	クウェート	455	456	-1
パラグアイ	531	531	0	アゼルバイジャン	454	462	-8
ウクライナ	526	535	-9	モンゴル	447	464	-17
イスラエル	524	522	2	アフガニスタン	446	447	-1
エルサルバドル	523	513	10	日本	446	454	-8
韓国	522	523	-1	カメルーン	445	445	0
ボリビア	521	525	-4	ハイチ	444	432	12
ロシア	521	532	-11	ミャンマー	444	449	-5

EF EPI 各国・地域スコア

各地域の英語力に
おける変化の年次比較

	EF EPI 2025年版	EF EPI 2024年版	スコアの推移
キルギス共和国	443	457	-14
セネガル	442	429	13
メキシコ	440	459	-19
ウズベキスタン	429	439	-10
ヨルダン	425	431	-6
スーダン	421	432	-11
カザフスタン	417	427	-10
ルワンダ	417	401	16
アンゴラ	413	409	4
タジキスタン	409	412	-3
マリ	408	-	新規
オマーン	407	421	-14
ベナン	406	413	-7
イラク	406	414	-8
サウジアラビア	404	417	-13
タイ	402	415	-13
イエメン	402	394	8
コンゴ民主共和国	400	-	もう一度読み込む
ソマリア	398	399	-1
トーゴ	397	-	新規
リビア	395	405	-10
コートジボワール	393	399	-6
カンボジア	390	408	-18

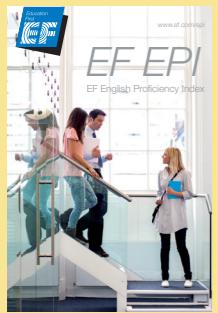
EF EPI 各国スコア (スピーキング・ラ イティングスキル 比較)

今年初めて生産的技能テスト(スピーキングとライティング)が追加されたことにより、総合スコアの変動が予想されました。しかしながら、生産的技能の評価を選択した受験者の割合が少なかったこと、また新しいテスト部門が実施された期間が限定的であったこと(2024年後半)により、今年の国・地域別スコアへの影響は軽微でした。これは以下の表で確認できます。

	EF EPI 2025年版	受容スキルのみのスコア	生産スキルを含めたスコア比較
オランダ	624	631	-7
クロアチア	617	626	-9
オーストリア	616	621	-5
ドイツ	615	616	-1
ノルウェー	613	618	-5
ポルトガル	612	621	-9
デンマーク	611	611	0
スウェーデン	609	613	-4
ベルギー	608	609	-1
スロバキア	606	615	-9
ルーマニア	605	611	-6
フィンランド	603	607	-4
南アフリカ	602	608	-6
ジンバブエ	602	613	-11
ポーランド	600	605	-5
ラトビア	598	596	2
ブルガリア	594	604	-10
ケニア	593	600	-7
ギリシャ	592	596	-4
ボスニア・ヘルツェゴビナ	591	599	-8
ハンガリー	590	595	-5
チェコ共和国	582	589	-7
マレーシア	581	586	-5
セルビア	578	581	-3
アルゼンチン	575	579	-4
ザンビア	573	580	-7
フィリピン	569	570	-1
ナイジェリア	568	577	-9
スイス	564	567	-3
ホンジュラス	553	559	-6
リトアニア	543	545	-2
ウルグアイ	542	545	-3
ジョージア	541	550	-9
ガーナ	540	543	-3
スペイン	540	542	-2
フランス	539	540	-1
香港(中国)	538	538	0
キプロス	537	552	-15
ベラルーシ	533	532	1
アルバニア	532	540	-8
モルドバ	531	526	5
パラグアイ	531	531	0
ウクライナ	526	525	1
イスラエル	524	528	-4
エルサルバドル	523	529	-6
韓国	522	529	-7
ボリビア	521	522	-1
ロシア	521	519	2
ベネズエラ	520	525	-5
ペルー	519	520	-1
ウガンダ	518	522	-4
チリ	517	517	0
コスタリカ	516	516	0
アルメニア	515	515	0
キューバ	515	518	-3
ネパール	514	512	2
イタリア	513	518	-5
ニカラグア	512	514	-2

	EF EPI 2025年版	受容スキルのみのスコア	生産スキルを含めたスコア比較
グアテマラ	510	512	-2
バングラデシュ	506	501	5
ドミニカ共和国	503	508	-5
ベトナム	500	496	4
エチオピア	499	510	-11
チュニジア	498	497	1
パキスタン	493	491	2
イラン	492	492	0
モロッコ	492	496	-4
パナマ	491	494	-3
トルコ	488	491	-3
アラブ首長国連邦	487	490	-3
スリランカ	486	486	0
インド	484	476	8
ブラジル	482	492	-10
コロンビア	480	483	-3
タンザニア	479	477	2
レバノン	477	473	4
ブータン	473	467	6
インドネシア	471	473	-2
カタール	469	465	4
アルジェリア	468	467	1
エクアドル	466	464	2
モザンビーク	465	460	5
中華人民共和国	464	464	0
パレスチナ	463	468	-5
ラオス	461	454	7
エジプト	458	460	-2
マダガスカル	457	450	7
シリア	456	453	3
クウェート	455	460	-5
アゼルバイジャン	454	452	2
モンゴル	447	443	4
アフガニスタン	446	444	2
日本	446	446	0
カメルーン	445	443	2
ハイチ	444	444	0
ミャンマー	444	439	5
キルギス共和国	443	443	0
セネガル	442	444	-2
メキシコ	440	439	1
ウズベキスタン	429	403	26
ヨルダン	425	425	0
スードーン	421	419	2
カザフスタン	417	413	4
ルワンダ	417	409	8
アンゴラ	413	410	3
タジキスタン	409	402	7
ベナン	406	400	6
イラク	406	404	2
サウジアラビア	404	411	-7
タイ	402	401	1
イエメン	402	395	7
コンゴ民主共和国	400	394	6
ソマリア	398	398	0
トーゴ	397	389	8
リビア	395	398	-3
コートジボワール	393	389	4
カンボジア	390	381	9

EF EPIの過去資料は www.ef.com/epi からダウンロードできます。



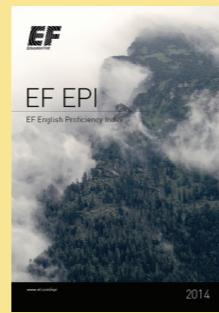
EF 英語能力指数
2011 年版



EF 英語能力指数
2012 年版



EF 英語能力指数
2013 年版



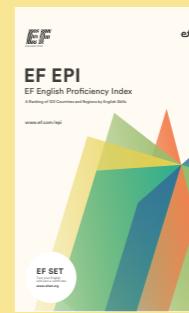
EF 英語能力指数
2014 年版



EF 英語能力指数
2023 年版



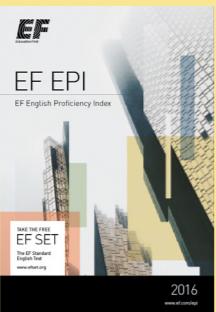
EF 英語能力指数
2024 年版



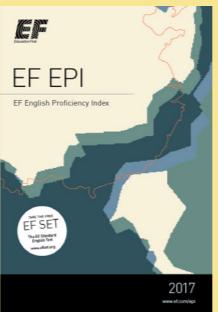
EF 英語能力指数
2025 年版



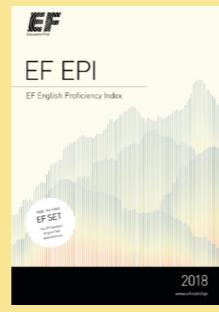
EF 英語能力指数
2015 年版



EF 英語能力指数
2016 年版



EF 英語能力指数
2017 年版



EF 英語能力指数
2018 年版



EF 英語能力指数
2019 年版



EF 英語能力指数
2020 年版



EF 英語能力指数
2021 年版



EF 英語能力指数
2022 年版

